

# CSR報告書 2017

## KISSEI CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2017



## 目次

ごあいさつ	1
会社プロフィール	2
業務紹介	
創薬研究、非臨床研究、製剤研究	4
臨床試験	5
医薬品製造	8
安全性情報、医薬情報活動	9
ヘルスケア事業	10
キッセイ薬品の価値創造プロセス	11
コーポレート・ガバナンスについて	
コーポレート・ガバナンス	12
キッセイグループ行動憲章	15
コンプライアンスの取り組み	16
社会性活動について	
社会との関わり	21
患者さまとの関わり	28
社員との関わり	31
環境保全活動について	
[全社の環境保全活動]	
キッセイ薬品環境基本方針	37
環境マネジメントシステム	38
キッセイ薬品と環境との関わり	41
環境保全活動の実績	42
環境会計	46
[事業所の環境保全活動]	
本社・松本工場	47
塩尻工場	48
ヘルスケア事業センター	49
中央研究所・製剤研究所	50
第二研究所	51
上越化学研究所	52
東京本社、支店・営業所	53
[グループ会社の環境保全活動]	
キッセイ商事株式会社	54
キッセイコムテック株式会社	55
ハシバテクノス株式会社	56
編集後記	57

本報告書は、環境省「環境報告書ガイドライン(2012年度版)」を参考にし、2016年度における社会的な取り組み並びに環境への取り組みをまとめています。

### CSR報告書の対象範囲

- ・対象年度：2016年度(2016.4～2017.3)を主な対象としていますが、一部2017年度を含みます。
- ・対象事業所：環境パフォーマンスデータは、キッセイ薬品の国内事業所、ハシバテクノス株式会社の該当データをまとめています。

# ごあいさつ

---

本年7月21日に発生した台風5号は、太平洋上を迷走し台風として18日間存在した、記録的な長寿台風となりました。これは日本近海の海水温上昇と、複数の台風が同時に発生したことによるものと考えられ、西日本・東日本の広い範囲に長時間の大雨をもたらしました。私たちの社会は、それぞれの地域の気候を背景にして、自然と共存した住みよい社会を形成しています。しかし地球温暖化は、この気候を私たちが経験したことのないものに変化させつつあります。当社は、環境基本方針のもとに環境保全活動の重要性を再認識し、事業活動を通じて地球環境保全と社会貢献活動を推進いたします。

さて、2017年4月から新たな中期経営計画「Co-Creation」を開始いたしました。「くすりを創る、価値を創る、未来を創る、共に創る」をスローガンに、激変する医療環境の変化を好機と捉え、「パートナー」「医療関係者」「患者さん」及び「地域」の皆様と共に、新たな価値、未来の共創に取り組んで参ります。

最近の新薬研究開発に係る主な状況についてご紹介しますと、昨年10月に潰瘍性大腸炎治療薬「AJG511(開発番号、一般名：ブテソニド)」について当社との共同開発先であるEAファーマ株式会社より承認申請が行われました。また、本年3月には丸石製薬株式会社との間でκオピオイド受容体作動薬「MR13A9(開発番号)」の透析患者におけるそう痒症の適応症について、日本国内での提携に関する契約を締結しました。さらに、本年6月にはビフォー・フレゼニウス・メディカル・ケア・リーナル・ファーマ社(スイス)との間で、腎領域等における希少疾患治療薬「CCX168(開発番号、一般名：アバコパン)」について、日本での独占的開発・販売権取得に関する契約を締結しました。グローバル展開としましては、「シロドシン(日本製品名：ユリーフ<sup>®</sup>錠)」の発売国が、日本を含む世界47ヵ国にまで拡大しました(本年8月時点)。また、オブシーバ社(スイス)に導出しております当社創薬テーマ「KLH-2109(当社開発番号)」について、子宮筋腫患者さんを対象とした欧米での第Ⅲ相試験が本年4月に開始されております。

キッセイ薬品は、更なる企業価値の向上に努め、ステークホルダーの皆様との信頼関係に基づいたCSR経営を推進して参ります。皆様の一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2017年9月



代表取締役会長

神澤 陸雄

# 会社プロフィール

## 会社概要 (2017年3月31日現在)

社名	<b>キッセイ薬品工業株式会社</b>
英文社名	KISSEI PHARMACEUTICAL CO.,LTD.
設立	昭和21年8月9日
資本金	24,356百万円
主要な事業内容	医療用医薬品の研究・開発・製造・販売 治療用特殊食品の開発・販売
事業所	本社 〒399-8710 長野県松本市芳野19番48号 電話(0263)25-9081 東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目8番9号 電話(03)3279-2761 東京本社(小石川) 〒112-0002 東京都文京区小石川3丁目1番3号 電話(03)5684-3530 支店 札幌支店、仙台支店、関越支店、東京支店、横浜支店、松本支店 名古屋支店、京都支店、大阪支店、高松支店、広島支店、福岡支店 (注)支店の下に46営業所を設置しております。
工場	松本工場、塩尻工場
研究所	中央研究所・製剤研究所、第二研究所、上越化学研究所 ヘルスケア事業センター
従業員数	1,600名
連結国内子会社	キッセイ商事株式会社、キッセイコムテック株式会社、ハシバテクノス株式会社



医療用医薬品

## キッセイ薬品の主な歩み

- 1946(昭和21)年  
8月 株式会社橋生化学(タチバナセイカガク)研究所創設
- 1947(昭和22)年  
5月 橋生薬品工業(キッセイヤクヒンコウギョウ)株式会社と改称
- 1961(昭和36)年  
12月 消化管内ガス駆除剤「ガスコン」発売
- 1964(昭和39)年  
10月 キッセイ薬品工業株式会社と改称  
10月 本社及び工場を現在地に建設移転
- 1969(昭和44)年  
5月 中央研究所建設(松本市)
- 1980(昭和55)年  
7月 製剤工場建設
- 1982(昭和57)年  
8月 アレルギー性疾患治療薬「リザベン」発売
- 1985(昭和60)年  
6月 第二研究所建設(安曇野市)
- 1986(昭和61)年  
8月 切迫流・早産治療薬「ウテメリン」発売
- 1988(昭和63)年  
4月 脳循環改善薬「キサソボン」発売  
12月 東京証券取引所市場二部上場
- 1990(平成2)年  
4月 食品事業室開設  
4月 エネルギー調整ゼリー「ゼリックス」発売  
11月 中央研究所竣工(安曇野市)・移転
- 1991(平成3)年  
4月 高脂血症治療薬「ベザトール」発売  
9月 東京証券取引所市場一部上場
- 1992(平成4)年  
3月 たんぱく質調整乾麺「げんたそば」発売  
5月 血液凝固阻止剤「フラグミン」発売  
6月 気管支喘息治療薬「ドメナン」発売
- 1994(平成6)年  
10月 塩尻工場竣工
- 1995(平成7)年  
7月 東京本社開設  
11月 第一品質管理棟竣工  
12月 アレルギー性結膜炎治療薬「リザベン点眼液」発売
- 1996(平成8)年  
9月 製剤研究所竣工
- 1997(平成9)年  
3月 東京本社(小石川)開設
- 1999(平成11)年  
7月 キッセイ薬品行動憲章制定  
11月 緑内障・高眼圧症治療薬「リズモンTG点眼液」発売  
12月 環境基本方針制定
- 2000(平成12)年  
9月 本社、松本工場、塩尻工場、塩尻物流センター、ヘルスケア事業センターにてISO14001認証取得
- 10月 子宮内膜症治療薬「ゾラデックス1.8mgデポ」発売
- 2001(平成13)年  
5月 ヘルスケア事業センター竣工  
8月 活性型ビタミンD3製剤「フルスタン」発売
- 2003(平成15)年  
9月 薬物動態研究所にてISO14001認証取得
- 2004(平成16)年  
5月 糖尿病治療薬「グルファスト」発売
- 2005(平成17)年  
3月 たんぱく質調整食品「ゆめシリーズ」、エネルギー補給食品「マクソンシリーズ」発売  
9月 口腔乾燥症状改善薬「サラジェン」発売
- 2006(平成18)年  
5月 前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬「ユリーフ」発売  
9月 東京本社、東京本社(小石川)、第二研究所にてISO14001認証取得
- 2007(平成19)年  
4月 上越化学研究所竣工  
9月 中央研究所・製剤研究所にてISO14001認証取得
- 2008(平成20)年  
12月 とろみ調整食品「新スルーキング1」発売
- 2009(平成21)年  
4月 前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬「シロドシン」(日本製品名:ユリーフ) 米国にて発売
- 2010(平成22)年  
2月 たんぱく調整冷凍おかずセット「ゆめの食卓」発売  
5月 腎性貧血治療薬「エポエチナルファBS注JCR」発売
- 2011(平成23)年  
3月 たんぱく調整減塩しょうゆ「減塩げんたしょうゆ」発売  
7月 糖尿病治療薬「グルベス配合錠」発売
- 2012(平成24)年  
1月 とろみ調整食品「スルーソフトQ」発売  
8月 「ゆめベーカリーたんぱく質調整食パン」発売
- 2013(平成25)年  
12月 たんぱく質調整減塩ぼん酢「減塩げんたぼん酢」発売
- 2014(平成26)年  
4月 アントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤の血管外漏出治療薬「サビーン点滴静注」発売
- 2015(平成27)年  
4月 たんぱく調整冷凍寿司 ゆめの食卓「ちらし寿司」「巻き寿司」発売  
11月 高リン血症治療薬「ピートル」発売
- 2016(平成28)年  
1月 前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬「ユリーフOD錠」(口腔内崩壊錠)剤形追加  
2月 水分補給ゼリー飲料「のみや水」発売  
6月 糖尿病治療薬「グルファストOD錠」(口腔内崩壊錠)剤形追加  
8月 エネルギー・たんぱく質補給デザート「えねぱくゼリー」発売

# 業務紹介

## 創薬研究（創薬研究部門）

### 知恵を結集し、新薬に挑戦

当社は、1946年の創立以来、「研究開発なくして製薬企業にあらず」の信念を持ち、独自の創薬開発に力を注いでいます。

創薬から育薬までは長い年月を要するだけでなく、様々な部署の協力・連携が必要です。研究開発・製造・販売の全プロセスで「患者さんのために」という想いを共有し、業務を推進しています。

新薬の研究開発に経営資源を重点的に投下しており、長野県安曇野市に中央研究所・製剤研究所、第二研究所を、新潟県上越市に上越化学研究所を置き、売上高の約20%を研究開発費としています。一方、研究開発の効率化を図るため、泌尿器、腎・透析など当社が強みとする領域を研究開発領域と定め、国内外の製薬企業との提携による技術導入・導出も積極的に行っています。

2004年に発売した「グルファスト」は、食後高血糖を抑制し血糖を良好にコントロールします。糖尿病患者さんが年々増加する中、高い評価を得ています。

2006年に発売した「ユリーフ」は、投与早期から前立腺肥大症に伴う排尿障害を改善します。患者さんのQOL(生活の質)向上に大きく貢献する治療薬として医師、患者さんから高い評価をいただいています。

## 非臨床研究（開発研究部門）

### 精度の高い実験を通して実験技術と知識を培う

開発研究部門では、動物や培養細胞を用いて、候補物質の有効性と安全性に関する様々な検討を行ない、承認申請に必要な資料を作成します。開発研究部門は薬理(期待する効果があるか、どのようなメカニズムで効果を現わすのか)や薬物動態(どのように体内に吸収され、分布・代謝・排泄されるか)、安全性(生体にとって安全か)などの部署に分かれていますが、お互いに情報共有やミーティングを行いながら業務を進めていきます。

## 製剤研究（製剤研究部門）

### 高品質の製剤を、より早く

製剤研究部門は製剤の設計、分析試験法の開発、臨床試験のための治験薬の供給、実生産のための製造部門への技術移転等を担っています。また、新剤形の研究も重要な業務の一つです。

幅広い業務を行う上で、医療からのニーズや最新の医療行政、各種規制の動向を的確に捉えながら、患者さんのクオリティオブライフ(QOL)や利便性向上に貢献する付加価値の高い、高品質の製剤を早期に提供することを目指しています。

## 社員の声

### 患者さん(ヒト)と環境に優しい医薬品開発の推進

研究本部 安全性研究所 毒性研究グループ 副主任研究員

#### 岸田 知行



安全性研究所では、ヒトで望ましくない作用(副作用：リスク)を実験動物や細胞を用いて明らかにし、症状の改善や病気を治すといった「くすり」本来の目的(効き目：ベネフィット)とのバランスを判断しています。創薬段階では、複数の開発候補化合物について初期安全性評価し、一つの化合物に絞り込まれた後は、医薬品の安全性に関する非臨床試験の実施基準(Good Laboratory Practice, GLP)に準拠した種々の非臨床安全性試験(一般毒性、遺伝毒性、安全性薬理など)を実施・評価します。リスクのない「くすり」はないですが、患者さんと医療関係者の皆さんに安心して使っていただけるよう安全を最優先に考えています。

当研究所は国営アルプスあづみの公園に隣接する自然環境豊かな立地に位置していることもあり、環境面に配慮した取り組み(省エネルギー化、省資源化)には精力的です。特に動物実験では、使用動物数の削減や代替法の利用など動物福祉にも配慮しており、2015年には国際機関であるAAALACインターナショナル(国際実験動物管理公認協会)の完全認証を取得しました。また、社会貢献活動の一貫として、年2回、始業前に全社員で研究所周辺のゴミ拾いを実施しています。常念岳を中心とした壮大な自然風景を眺めながら、朝のすみきった空気の中での清掃は心も洗われるようで気持ち良いです。

これからもヒトと環境に優しい医薬品開発の推進を心掛けていきます。

## 臨床試験（臨床開発部門）

### 新たな治療の選択肢を、最適な形で

臨床開発部門の役割は、新薬を世に出す＝承認申請に必要なデータを作成するため、ヒトを対象とした有効性や安全性の試験（治験）を行うことです。治験は倫理性、論理性、科学性を重視し、厚生労働省が定めた基準（GCP）に従って行われ、治験を行う医師からの十分な説明と、患者さんご本人の理解と同意の上で実施されます。

臨床開発部門は、新薬を最適な形で、一日でも早く世に出すことを目指し、全国の治験施設（治験を実施する医療機関）を訪問して臨床試験の依頼・管理を行うモニターをはじめ、開発戦略の立案や規制当局との折衝を担う部署、臨床試験の品質確認や試験データの解析を行っています。

### 新薬の開発状況（2017年8月現在）

開発段階	製品名／ 一般名／ 開発番号	開発区分	予想される適応症	主な作用等／備考
承認申請中	ブデソニド／ AJG511	導入品／EAファーマ共同開発	潰瘍性大腸炎	局所作用型ステロイド／注腸フォーム製剤
申請準備中	ビベグロン／ KRP-114V	導入品／杏林製薬共同開発	過活動膀胱	$\beta_3$ アドレナリン受容体刺激作用
第Ⅲ相	ロバチレリン／ KPS-0373	導入品／塩野義製薬	脊髄小脳変性症	甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン（TRH）作用
第Ⅲ相	カロテグラストメチル／ AJM300	導入品／EAファーマ共同開発	潰瘍性大腸炎	$\alpha_4$ インテグリン阻害作用
第Ⅲ相	JR-131	導入品／JCRファーマ共同開発	腎性貧血	赤血球増加作用／ ダルベポエチンアルファ バイオ後続品
第Ⅱ相	KLH-2109	創製品	子宮内膜症、子宮筋腫	GnRHアンタゴニスト
第Ⅱ相	ジフェリケファリン／ MR13A9	導入品／丸石製薬共同開発	透析患者におけるそう痒症	$\kappa$ オピオイド受容体刺激作用
第Ⅰ/Ⅱ相	YS110	導入品／ワイス・エー・シー、 東京大学、日本医療研究開発機構 (AMED)	悪性中皮腫	抗CD26ヒト化モノクローナル抗体
第Ⅰ相	KDT-3594	創製品	パーキンソン病	ドバミン受容体刺激作用

### 潰瘍性大腸炎治療薬「AJG511(開発番号)」の 国内製造販売承認申請

当社とエーザイ株式会社の消化器事業子会社であるEAファーマ株式会社（以下「EAファーマ」）は、日本における潰瘍性大腸炎治療薬「AJG511(開発番号)」について、EAファーマが製造販売承認申請を行いました。

本剤は、EAファーマがDr. Falk Pharma社（ドイツ）より導入し、両社が共同で開発を進めてきたブデソニドを有効成分とする日本初の泡状の注腸製剤（注腸フォーム製剤）です。

潰瘍性大腸炎は、大腸の粘膜に潰瘍などができる炎症性腸疾患のひとつであり、腹痛や下痢、下血などに

より著しいQOL（生活の質）の低下を余儀なくされる疾患です。

本剤は、局所作用型ステロイド薬であるため、ステロイドに起因する全身性の副作用の低減が期待できます。また泡状であることにより、直腸及びS状結腸に到達した薬剤が局所に留まり、投与後に薬剤が漏れにくいという特徴があります。

当社とEAファーマは、本剤がより簡便で安全な局所治療薬のニーズに応えることが出来、治療上の新たな選択肢となることを期待しています。

## κオピオイド受容体作動薬「MR13A9」の国内における開発及び販売のための協業に関する契約締結

当社は、丸石製薬株式会社(以下「丸石製薬」と)と丸石製薬が国内で開発中のκオピオイド受容体作動薬「MR13A9(丸石製薬開発コード)」の透析患者における掻痒症の適応症について、開発及び販売のための協業に関する契約を締結しました。

本剤は、米国Cara Therapeutics, Inc.により創製されたκオピオイド選択的な受容体作動薬で、透析患者における掻痒症の適応症としては世界初の静注用製剤です。

丸石製薬が2013年4月に同社より本剤を導入し、現在国内における第Ⅱ相臨床試験を実施中です。

本剤は、患者さんの利便性や服薬コンプライアンスの向上に貢献し、掻痒治療の新たな選択肢となることが期待されます。

本契約に基づき、当社と丸石製薬は本剤の上記適応症での日本国内における開発及び販売について協業します。本剤の開発等に関わる費用につきましては、両社で負担し、丸石製薬による製造販売承認取得後、当社が本剤の販売を行います。

当社は、腎・透析領域を重点領域の一つとして位置付け、製品ラインナップの拡充とプレゼンスの向上に取り組んでいます。今回の契約締結により、この取り組みが一層強化されるとともに、本剤の開発の促進ならびに製品普及の最大化に寄与できるものと期待しています。

### 社員の声

開発本部 開発推進部 臨床管理室臨床管理グループ  
山谷 裕樹



「薬」が誕生するまでには長い年月をかけて、くすりの候補の効果や安全性を確認していく必要があります。その最終段階として、ヒトでの効果や安全性を確かめるための試験を治験と呼び、開発本部では治験の実施を担当しております。治験を行う上では、治験に協力してくださる方々の権利や安全を最大限に守り、信頼性の高いデータを得る必要があるため、私たちには高い倫理観が求められます。私たちは高い倫理観と、一日でも早く病気で苦しむ患者さまに貢献する薬を届けたいという熱い想いを持って、日々の業務に臨んでおります。

業務を行う上では、節電などの省エネ活動や、紙の削減、文具の再利用などの省資源化活動に取り組んでおります。一つひとつの活動は小さなものですが、部全体で取り組むことで大きな効果を生んでおり、常日頃から一人ひとりが意識して省エネ・省資源化活動に取り組むことの重要性を感じております。また、地域の清掃活動など、業務以外でも社会に貢献できる活動を行っております。

よりよい新薬を患者さまに届けることによる社会貢献はもちろんですが、様々な側面から社会や環境に配慮した企業を目指して、今後も活動を積極的に続けていきたいと考えております。

## 腎領域等における希少疾患治療薬 補体C5a受容体阻害剤「アバコパン」に関する技術導入契約締結

当社は、ピフォー・フレゼニウス・メディカル・ケア・リーナル・ファーマ社(以下「VFMCRP社」と補体C5a受容体\*<sup>1</sup>阻害剤「アバコパン(一般名)」について、日本での独占的開発・販売権取得に関する契約を締結しました。

本剤は、米国のケモセントリクス社により創製された、腎領域等における希少疾患治療薬です。経口投与可能な低分子化合物であり、好中球をはじめとする白血球などに存在するC5a受容体を阻害し、白血球の遊走、及び接着分子の発現誘導を妨げることで、抗炎症作用を発揮します。本剤のターゲットのひとつであるANCA(抗好中球細胞質抗体)関連血管炎\*<sup>2</sup>は、厚生労働省特定疾患に指定されている難治性炎症疾患で、近年急速に患者数が増加しており、多くの場合、壊死性糸球体腎炎を呈します。現在欧米などで、ケモセントリクス社によるANCA関連血管炎を適応症とした第Ⅲ相臨床試験が進行中であり、またC3腎症\*<sup>3</sup>及び非典型性溶血性尿毒症症候群\*<sup>4</sup>を適応症とする第Ⅱ相臨床試験が予定されています。

当社は、泌尿器、腎・透析領域ならびにアンメットメディカルニーズが高い領域における製品ポートフォリオの拡充に取り組んでいます。今回の契約締結により、希少疾患治療に対する取り組みを一層強化するとともに、本剤を難治性疾患に苦しむ患者さんに早期に提供することを目指します。

<ご参考>

\*1：補体C5a受容体(C5aR)について

補体とは血液中に含まれるタンパク質で、さまざまな免疫反応や感染防御に関与しています。補体には多くの種類があり、一般に補体の英語表記complementの頭文字をとってCで表されます。そのうちC5aは好中球などを炎症部位に呼び寄せるケモカイン(走化性因子)として働きます。C5aRを阻害することで、血管を傷つける好中球などの働きを抑えることができ、抗炎症作用を発揮すると考えられています。

\*2：ANCA(抗好中球細胞質抗体)関連血管炎(AAV)について

免疫複合体の沈着が無いが、ほとんどみられない、小血管の壊死性炎症と高いANCA陽性率を特徴とする難治性疾患です。腎臓、肺、神経系など様々な臓器に障害がみられます。国内患者数は1万人を超えると推定されています(平成27年度末現在特定医療費(指定難病)受給者証所持者数より)。現在のAAV標準治療は、副腎皮質ステロイドと免疫抑制剤の併用であり、アバコパンはステロイドとの置き換えにより、ステロイド特有の有害事象を回避することが期待されています。

\*3：C3腎症(C3G)について

指定難病である一次性膜性増殖性糸球体腎炎の一種で、補体経路の異常によって惹起された腎組織障害による疾患です。国内患者数は一次性膜性増殖性糸球体腎炎として40人以上と推定されています(平成27年度末現在特定医療費(指定難病)受給者証所持者数より)。現在、C3腎症を適応症として承認されている薬剤はありません。

\*4：非典型性溶血性尿毒症症候群(aHUS)について

補体系因子の異常などによって起こる、1)溶血性貧血、2)血小板減少、3)急性腎障害を主な症状とする指定難病です。国内患者数は40人以上と推定されています(平成27年度末現在特定医療費(指定難病)受給者証所持者数より)。現在の治療薬としては、バイオ製剤であるエクリズマブが使用されています。

## 医薬品製造（生産部門）

### 高品質な製剤を安定供給する

生産部門は、製品の品質確保に注力しています。創立当時の経営理念「純良医薬品を通じて社会に貢献する」を実現するために、各工場では厚生労働省が定めた製造管理及び品質管理の基準(GMP)の遵守と更なる品質の確保に取り組んでいます\*。患者さんが安心して使用できる製剤を、自信を持って世に送り出したいと考えています。

ひと口に「品質の確保」といっても様々です。そのため、「従来の品質で十分」とは考えず、医薬品を取り巻く環境変化を的確に捉え、試験の論理性を高めて「科学的根拠のある高品質」を目指しています。

- \* 1975年 KGMP規程(GMP省令等に基づく社内規定)制定
- 2014年 品質基本方針制定、医薬品品質システム管理規程制定、医薬品品質システム構築

例えばチュアブル錠は噛み砕いて水なしでも服用できる剤形です。

「噛み砕きやすい製剤」「より服用しやすい製剤」でありながら、製造工程では割れない強度が必要です。その両立のため、設備や必要な手順に改良を加え、品質試験を繰り返す行うことで、生産体制を構築してきました。



ビートルチュアブル錠

### 社員の声

## 純良医薬品を製造するために

松本工場 製造管理課 製造管理係長  
鈴木 誠



松本工場では医薬品の製造管理及び品質管理に関する基準(GMP)を遵守し、主に内服固形製剤の製造を行っております。医薬品の製造は原料の受入れから始まり、製品の出荷まで徹底した管理と品質試験が繰り返されます。私の所属する製造管理課では高品質な医薬品を安定的に市場へ供給するため、毎月の製造計画立案や製造に必要な原材料の発注、工程へ払出し、製品の出荷処理など、製造実行システム(MES)を活用した在庫管理を行っております。製造計画の立案に際しては、各工程と調整を行いながら、残業並びに休日出勤を極力抑えた効率的な計画を立案・実行しており、昨年は空調機及び設備稼働による電力量を39,043kWhの削減効果が得られました。また、作業環境を考慮した環境保全活動として、工場内の照明についてLED化を推進しており、昨年は30,768kWhの削減効果が得られました。その他、過剰在庫による廃棄が発生しないよう、原材料の発注をコントロールしております。今後も継続して改善活動を推進していき環境保全に貢献したいと思います。

毎年、地域環境保全活動として本社周辺の清掃活動を実施しております。参加者全員が早朝より積極的に取り組んでいて、街が年々きれいになっている印象があります。活動を通じて環境保全への意識が高まり、地域の社会貢献に繋がっていると感じております。

今後も環境保全を意識した中で環境負荷の少ない医薬品製造業務を推進して、純良医薬品を患者さんへ届ける使命を継続していけるよう努めて参ります。

## 安全性情報（安全管理部門）

### 安全性

安全管理部門では、市販後に得られる情報から、より安全で適正な使用方法を検討しています。医薬品は市販後には幅広い年齢層や様々な病態の患者さんに使用されることから、治験時など発売前には予想されない有害な作用が現れる可能性があります。私たちは、市販後の製品について国内外からの安全性情報を計画的に収集、評価し、必要に応じ国への報告や添付文書の「使用上の注意」改訂などを行い、有効で安全な使い方に関する情報を医療関係者へ伝えています。

## 免疫抑制剤「イムラン<sup>®</sup>錠50mg」のコ・プロモーション契約締結

当社は、アスペンジャパン株式会社(以下「アスペンジャパン」)とアスペンジャパンが製造・販売している免疫抑制剤「イムラン<sup>®</sup>錠50mg」(一般名：アザチオプリン)について、2017年1月からコ・プロモーションを行うことで合意し契約を締結しました。

本契約により、当社とアスペンジャパンは共同で「イムラン<sup>®</sup>錠50mg」の医療機関等への医薬情報提供活動を行います。本剤の製造、販売、流通は引き続きアスペンジャパンが担当いたします。

「イムラン<sup>®</sup>錠50mg」は、免疫抑制作用を有する6-メルカプトプリン(6-MP)のプロドラッグです。有効成分アザチオプリンは、生体内ですみやかに6-MPに分解され、核酸合成を阻害することにより免疫抑制作用を発揮します。腎移植における拒絶反応の抑制に30年以上使用されているほか、炎症性腸疾患である潰瘍性大腸炎やクローン病、治療抵抗性リウマチ性疾患の治療などに広く用いられています。

当社とアスペンジャパンは、今回の提携により「イムラン<sup>®</sup>錠50mg」の医薬情報提供活動を更に強化・充実させ、より多くの患者さんのQOL(生活の質：Quality of life)の向上に貢献できるよう努めて参ります。

## 医薬情報活動（営業部門）

### 幅広い患者さんに、適正使用を

MR(医薬情報担当者)は医療機関を訪問し、自社製品の適正使用のため、有効性・安全性等の情報を医療関係者に提供します。また、実際に患者さんに処方された有効性や安全性情報を収集し、安全管理部門で評価・分析された結果を医療関係者に情報伝達しています。このような活動を通して、自社製品の適正使用が進み多くの患者さんの役に立つことを目指します。

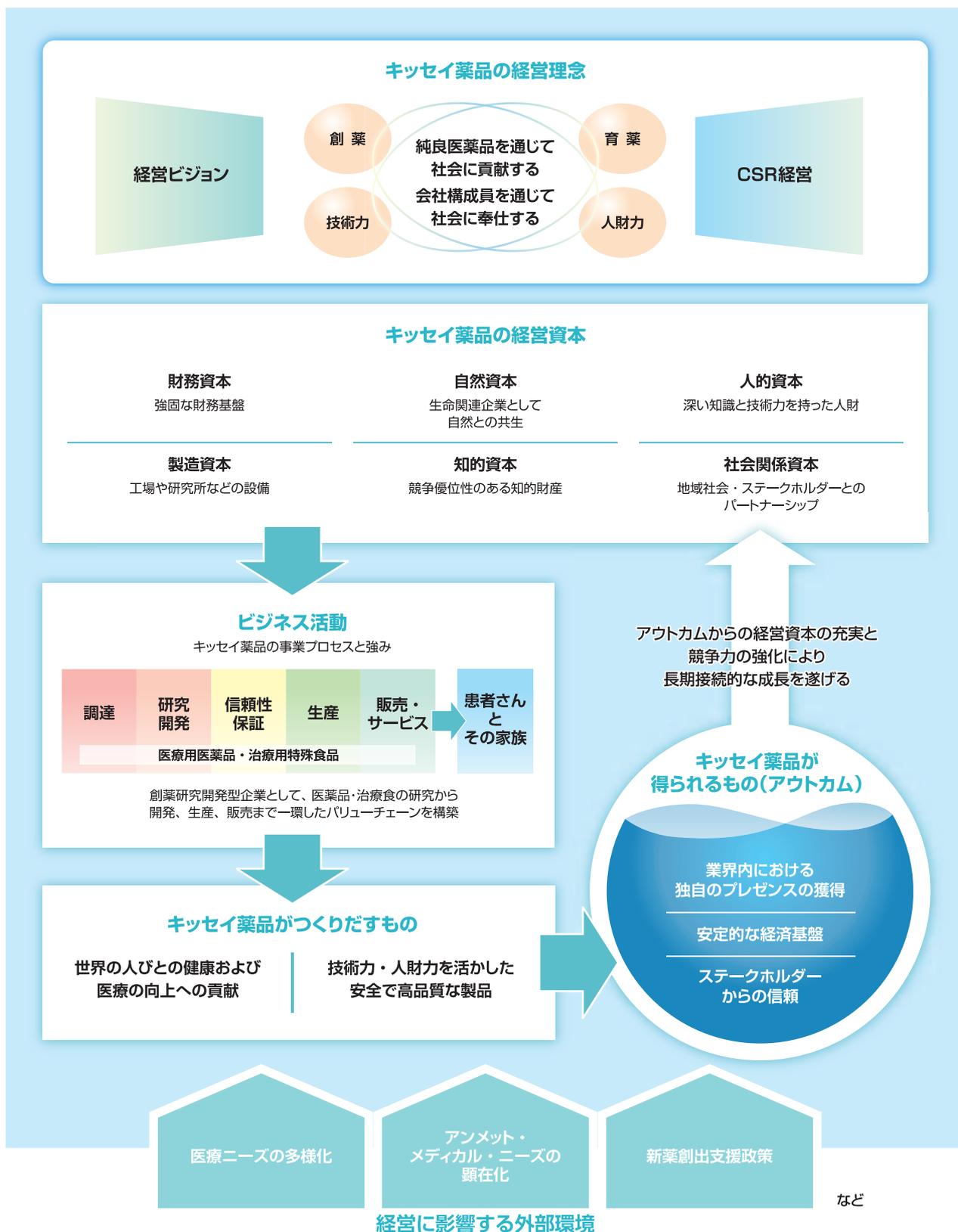
「イムラン<sup>®</sup>錠50mg」の効能・効果

1. 下記の臓器移植における拒絶反応の抑制  
腎移植、肝移植、心移植、肺移植
2. ステロイド依存性のクローン病の緩解導入及び緩解維持並びにステロイド依存性の潰瘍性大腸炎の緩解維持
3. 治療抵抗性の下記リウマチ性疾患  
全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎、ヴェゲナ肉芽腫症、結節性多発動脈炎、Churg-Strauss症候群、大動脈炎症候群等)、全身性エリテマトーデス(SLE)、多発性筋炎、皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、及び難治性リウマチ性疾患



# キッセイ薬品の価値創造プロセス

当社は、経営ビジョンの実現に向けて、変化する外部環境に対応しながらビジネス活動を展開します。そして、得られた成果を様々なステークホルダーの皆様と共有し、信頼関係を構築しながら、経営資本の充実と競争力の強化により企業価値の向上につなげて参ります。



# コーポレート・ガバナンスについて

## コーポレート・ガバナンス

### コーポレート・ガバナンスに関する基本方針

2015年6月1日より、上場会社を対象に「コーポレートガバナンス・コード」\*（以下、CGコード）が適用され、上場会社は、上場規則により、CGコードについて「Comply or Explain」（原則を実施するか、実施しない場合にはその理由を説明すること）が求められるようになりました。

当社は、CGコードの趣旨・精神を十分に踏まえた上で、当社の持続的な成長と企業価値向上の実現を目的として、2015年10月1日付で「キッセイ薬品 コーポレート・ガバナンスに関する基本方針」を制定しました。

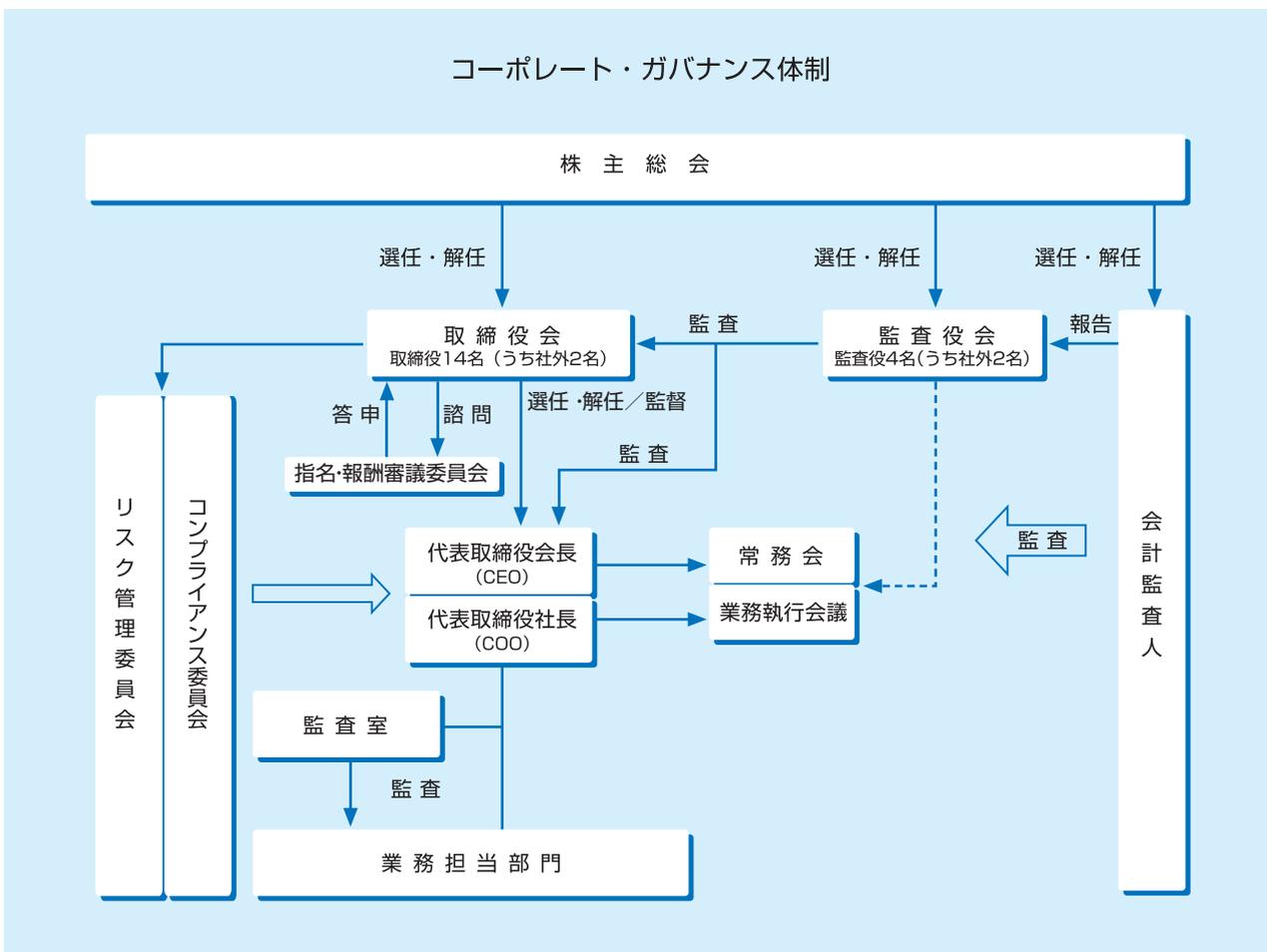
※CGコードとは、政府の成長戦略「『日本再興戦略』改訂2014」において「持続的な企業価値の向上のための自律的な対応を促す」ためのアクションプランとして盛り込まれ、これを受けて、金融庁・東京証券取引所を共同事務局とする有識者会議によりCGコード（原案）が策定され、2015年6月1日より上場規則として適用されました。

「キッセイ薬品 コーポレート・ガバナンスに関する基本方針」に定める事項の実践を通じて適切にCGコードへ対応するとともに、株主をはじめとするステークホルダーとの信頼を育み、社会に必要とされる健全で持続的な企業の発展を目指します。

### 内部統制基本方針

当社は、「純良医薬品を通じて社会に貢献する／会社構成員を通じて社会に奉仕する」という経営理念の下、役員及び従業員が総力を挙げて企業価値を向上させ持続的な発展を目指すとともに、社会的責任を果たすことをここに宣言します。本基本方針は、会社法第362条5項に基づき、当社の内部統制システムの体制整備のために取り組む活動の基本方針を定めたものです。

### コーポレート・ガバナンス体制



## キッセイ薬品 コーポレート・ガバナンスに関する基本方針(要旨)

### 1. 基本的な考え方

- ・CGに関する基本的な考え方と基本方針

### 2. 当社の経営理念、経営ビジョンについて

- ・中長期的な企業価値向上の基礎となる経営理念の策定

### 3. 行動規範について

- ・会社の行動準則(倫理基準、行動規範)の策定・実践・レビュー

### 4. 人材活用の多様性について

- ・人材活用の多様性の確保

### 5. 適切な情報開示について

- ・経営戦略・中長期経営計画の開示と付加価値の高い記載内容

### 6. 利益配分について

- ・配当政策、自己株式の取得・処分及び内部留保に関する基本的考え方

### 7. 株主総会について

- ・株主が適切な判断を行うための適確な情報提供
- ・招集通知の早期発送及び発送前のウェブ開示
- ・株主総会関連の日程に関する適切な設定
- ・実質株主による議決権行使に関する対応

### 8. 株主の権利の確保について

- ・株主の権利の確保
- ・相当数の反対票が投じられた際の対応
- ・総会決議事項を取締役に委任する際の留意
- ・株主の権利行使を妨げないよう求められる配慮

### 9. 株主との対話について

- ・株主との建設的な対話を促進するための体制整備・取組に関する方針
- ・株主構造の把握

### 10. 取締役会等の役割について

- ・当社のコーポレートガバナンス体制と当該体制を採用する理由
- ・取締役会が経営陣に対して委任する範囲の概要
- ・取締役の員数
- ・取締役会による、取締役会全体の実効性に関する分析・評価
- ・取締役会における審議の活性化を図る取組み
- ・取締役・監査役に対するトレーニングの方針

### 11. 役員の指名・報酬等について

- ・指名、報酬などに関する任意諮問委員会の設置状況
- ・取締役会全体としての知識・経験・能力のバランスや多様性及び規模に関する考え方
- ・役員選任(指名)の方針・手続
- ・役員個々の選任・指名の理由
- ・取締役の報酬の決定方針・手続

### 12. 社外役員(社外取締役及び社外監査役)、独立社外取締役について

- ・独立社外取締役の選任に関する方針と3分の1以上選任しない理由
- ・社外役員の兼任状況と兼任に関する方針
- ・社外役員に対するトレーニングの方針
- ・社外役員の独立性判断基準

### 13. 監査役及び監査役会について

- ・監査役及び監査役会の役割・責務
- ・監査役の報酬の決定方針・手続
- ・監査役と社外取締役の連携状況

### 14. 会計監査人について

- ・外部会計監査人による十分な監査時間、経営幹部へのアクセス、監査役・内部監査部門との連携
- ・外部会計監査人を選定・評価する基準の策定と独立性・専門性の確認

### 15. 内部監査について

- ・内部監査部門との連携、連絡・調整する者の選任

### 16. 当社が保有する株式について

- ・政策保有に関する方針
- ・政策保有株式に関わる議決権行使の基準

### 17. 関連当事者間取引の方針について

- ・関連当事者間の取引に関する適切な手続の枠組みと監視の状況

### 18. 内部通報制度について

- ・経営陣から独立した内部通報窓口の設置と規律の整備

## キッセイ薬品内部統制基本方針(要約)

平成27年10月1日 改正

### 1. 取締役及び使用人の職務執行が法令及び定款に適合するための体制

- ・キッセイ薬品行動憲章に則り、企業倫理・法令遵守をあらゆる企業活動の前提とすることを徹底する。
- ・取締役会はコンプライアンス担当取締役を指名し、コンプライアンス推進部門を統括せしめるとともに、取締役会の諮問機関としてコンプライアンス委員会を設置する。

### 2. 取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ・取締役会は、当社の取締役及び部門責任者の職務執行に係る情報の保存及び管理を適切に行う体制を整備する。
- ・法務担当取締役をして、文書管理規程を制定し、関連資料その他情報と共に、その保存媒体に応じて適切かつ検索性の高い状態で保存・管理する。

### 3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ・取締役会は、リスク管理規程その他の必要な社内規程を定め、業務執行に係るリスクの把握と管理を行う体制を整備する。

### 4. 取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ・取締役の職務執行の効率性を高めるために、連携と牽制を意図して社内組織を構築し、社内規程の定めに基づく明確な業務分掌、職務権限及び意思決定ルールを設け、適正かつ効率的に職務の執行が行われる体制を確保する。

### 5. 企業集団における業務の適正を確保する体制

- ・キッセイグループ行動憲章を定め、これに則り、グループ企業の取締役及び従業員が一体となって遵法意識の醸成を図る。
- ・取締役会において関係会社管理規程等を整備し、一定の事項について関係会社の取締役会決議前に当社関係会社管理部門に承認を求め又は報告することを義務づけ、必要に応じ当社取締役会の事前の承認決議を得るものとする。

### 6. 財務報告の信頼性を確保するための体制

- ・財務報告に係る内部統制構築・評価の基本方針書を定め、適切に運用することにより、グループ全体の財務報告の信頼性を確保する。

### 7. 監査役職務を補助すべき使用人にかかる体制とその独立性に関する事項

- ・監査役が職務を補助すべき使用人を求めた場合は、監査役と協議の上、補助者として内部監査部門の従業員を充てる。

### 8. 当社の取締役及び使用人並びに関係会社の取締役、監査役及び使用人による監査役又は監査役会に対する報告のための体制、その他監査役監査の実効性確保のための体制

- ・当社並びに関係会社の取締役会は、監査役会に報告すべき事項を監査役と協議の上定め、当社各担当取締役、部門責任者又は関係会社の取締役等が報告をする。
- ・監査役又は監査役会へ報告を行った当社及び関係会社の取締役・従業員に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いをすることを禁止する。監査役職務の執行について生ずる費用又は償還の処理については、監査役の請求等に従い速やかに行う。

### 9. 反社会的勢力を排除するための体制

- ・キッセイ薬品行動憲章に則り、反社会的勢力及び団体との一切の関係を排除するための社内体制を整備する。

## キッセイグループ行動憲章

キッセイグループがより高い倫理観を持って活動し、社会に貢献していくための行動指針としてキッセイグループ行動憲章を制定しています。全てのグループ社員は、この行動憲章を遵守して行動しています。

### キッセイグループ行動憲章

平成18年7月 制定

私たちは、「輪と和を通じて、より大きく社会に貢献する」というキッセイグループ経営理念のもと、次の行動原則に基づき、すべての法令、規則及びその精神を遵守し、高い倫理観をもって行動します。

1. すべての事業分野において、社会に役立つ製品やサービスを開発し、提供します。
2. すべての事業活動において、公正、透明で自由な競争を行います。
3. 広く社会とのコミュニケーションを重視し、適切な情報開示を行い、企業活動の透明性を高めます。
4. 従業員の多様性、人格、個性を尊重し、その資質の向上に努めるとともに、安全で働きやすい労働環境を確保します。
5. 環境問題の重要性を認識し、自主的、積極的にその保全に取り組みます。
6. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行います。
7. 地域の文化、伝統、慣習を尊重し、社会との調和、共生ができる事業活動を進めます。
8. 各会社の経営トップは、本憲章の精神の実現を自らの役割とし、率先垂範の上、企業倫理の徹底を図ります。

# コンプライアンスの取り組み

## 倫理・環境担当役員から

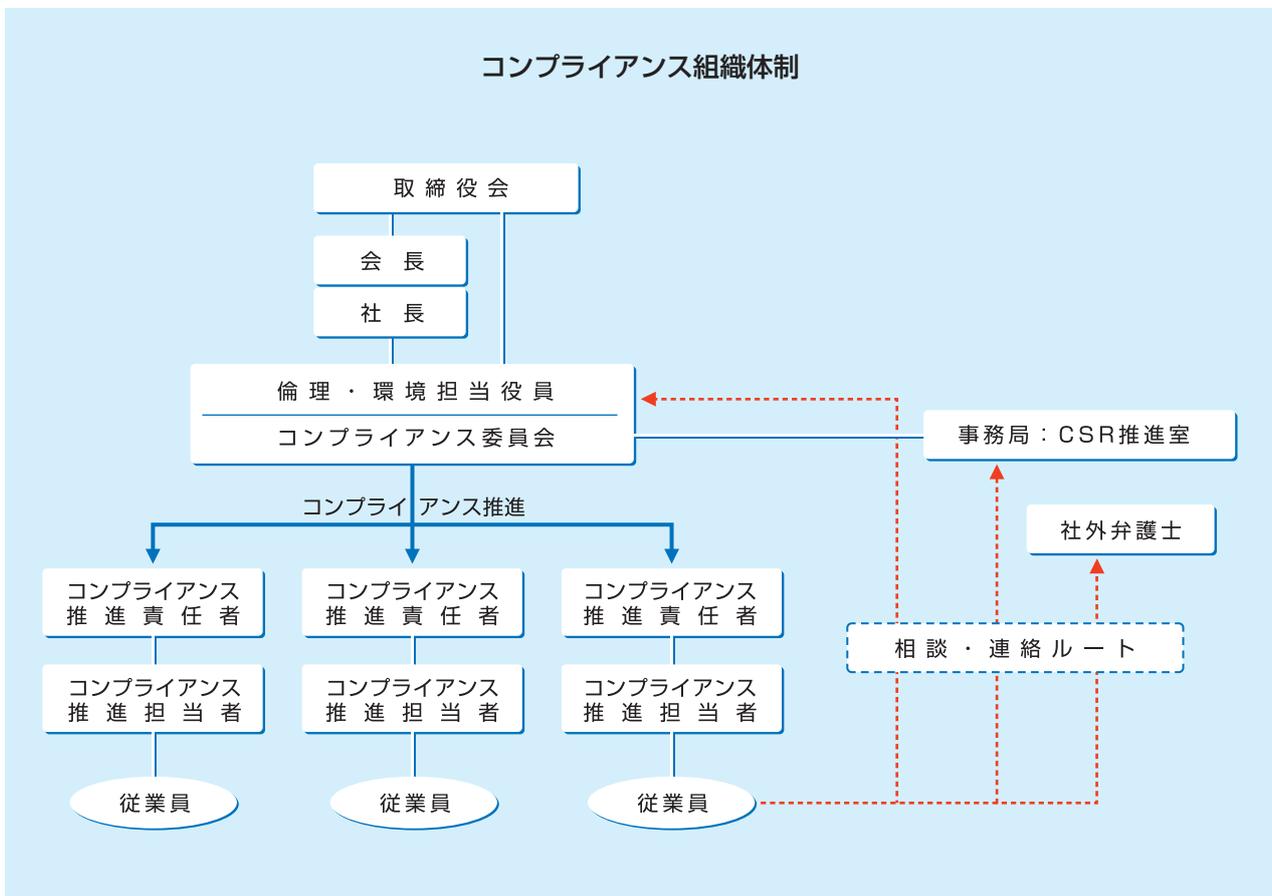
当社は、経営理念のもとにキッセイ薬品行動憲章を制定し、社会から信頼される企業であり続けるために、コンプライアンス・プログラム マニュアル及びキッセイ薬品コード・オブ・プラクティスを行動規範として企業活動に取り組んでいます。

近年、「名門」と呼ばれていた企業からコンプライアンス違反が露見されています。このコンプライアンス違反という言葉を使うときには、大きく2つの意味があります。一つは、法令・規則・業界ルール等の「守るべき事柄」に違反したことであり、もう一つは、法令には違反していなくてもステークホルダーの視点や常識からみて「おかしい」といわれる言動や状況を作り出したことです。社会から「コンプライアンス違反」といわれることは、「ダメな会社」「非常識な会社」といわれることと同じであり、1回のコンプライアンス違反で会社が倒産することもあります。

このコンプライアンス違反や企業不祥事を発生させないための日頃の取り組みのひとつに「ステークホルダーの目になって自らを省みること(自省の姿勢)」が挙げられます。私たちは、当社の経営理念「純良医薬品を通じて社会に貢献する 会社構成員を通じて社会に奉仕する」の追求と「自省の姿勢」によってコンプライアンスへの意識を高め、社員一人ひとりの力と会社組織の力を結束させて、コンプライアンスに真摯に取り組んでいきたいと考えます。

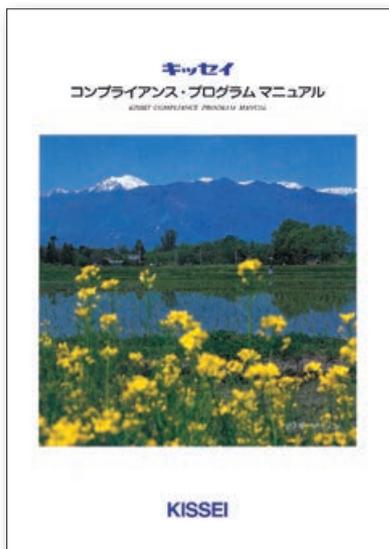


取締役総務部長(倫理・環境担当役員)  
松下 英一



## キッセイ薬品行動憲章、コンプライアンス・プログラムマニュアル

当社は社会の一員としての行動原理・原則をCSR（企業の社会的責任）推進の見地からより具体的に展開し、キッセイ薬品行動憲章として1999年7月に制定し、2001年4月にはキッセイ薬品コンプライアンス・プログラム マニュアル初版を発行いたしました。行動憲章及びマニュアルにつきましては、その後も改定を続けておりますが、特にマニュアルにつきましては、会社法をはじめとする新たな法令への対応や社内外の環境変化に対応すべく、2014年4月に改定第5版として発行しました。同マニュアルは当社のみならずキッセイグループ全社員に配付され、コンプライアンスの実践指針として活用されています。



コンプライアンス・プログラムマニュアル

## コード・オブ・プラクティス

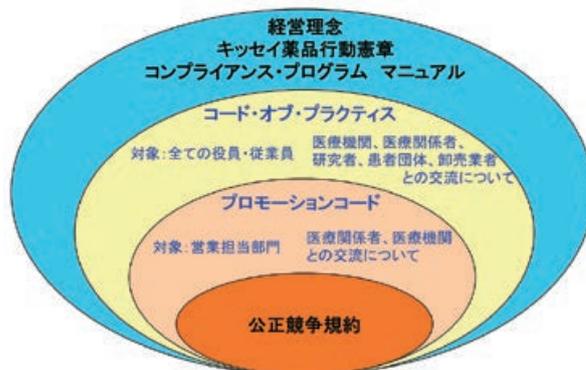
当社は2013年4月にキッセイ薬品コード・オブ・プラクティスを制定・実施しました。

これは、従来のキッセイ薬品医療用医薬品プロモーションコードを発展し、すべての役員・従業員を対象に、医療関係者、医療機関等に対するプロモーション活動及びその他の企業活動に関する自主規範となるものです。

### 【序文】

キッセイ薬品工業株式会社は、優れた製品を開発し提供することにより、世界の人々の健康及び医療の向上に貢献することを目指している。この目的を達成するうえで、適切な産学連携のもと、研究者、医療関係者、患者団体等と相互の信頼関係を構築し、倫理的で患者の立場に立った最適な医療が継続して行われることはとても重要である。

私たちは、医薬品の創薬研究開発に携わる企業として、常に高い倫理性と透明性を確保し、研究者、医療関係者、患者団体等との交流に対する説明責任を果たし、社会の信頼に答えていくためにキッセイ薬品コード・オブ・プラクティスを制定し、自社の行動規範とする。



キッセイ薬品コード・オブ・プラクティスの位置づけ

### コンプライアンス教育・研修・啓発

法令や規程のみならず、企業倫理を遵守することの重要性を徹底し、コンプライアンスにおける役員及び社員の役割や責任を確実に果たしていくため、役員・部門長、新任管理・監督者、新入社員に対する階層別教育・研修のほか、各部門・部署が分掌している業務に直結したコンプライアンス教育・研修を全社員対象に実施しています。教育・研修については原則半期に1回の実施を義務付けており、事後全ての実施報告がなされます。2016年度は、205部署において、延べ1,360回のコンプライアンス教育・研修が行われました。さらに、社内イントラネットによるコンプライアンスQ&A事例集やコンプライアンス関連の教育資料掲示、コンプライアンス・カードの配付等により社員への啓発を促しています。

11月には「コード・オブ・プラクティス理解促進月間」を展開し、社長、倫理・環境担当役員から全社員への倫理及びコード・オブ・プラクティスの徹底を呼びかけました。

#### キッセイ薬品 コンプライアンス実践の指針

**社会常識・倫理観に沿った行動**

- 私たちは、社会人としての良識を保ち、また責任を持って主体的、誠実に行動します。
- 私たちは、生命関連企業に従事するものとして業務の遂行にあたり、企業倫理・職業倫理に則り、医療と健康への貢献を常に最優先に考えます。
- 私たちは、企業としての利益追求と、公正な企業活動が対立する場合には、公正な企業活動を優先させます。

**倫理・法令違反行為の禁止**

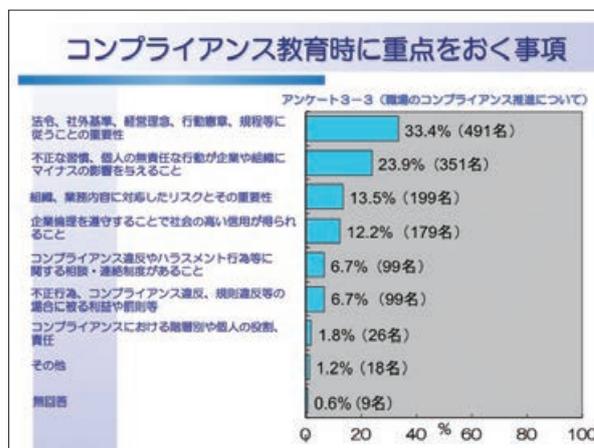
- 私たちは、自ら倫理・法令に違反する行為を行いません。
- 私たちは、他の社員に対し、倫理・法令に違反する行為を指示、教唆しません。
- 私たちは、他の社員による倫理・法令に違反した行為またはそのおそれがある行為に気づいた場合には、これを見逃しません。

署 名 \_\_\_\_\_

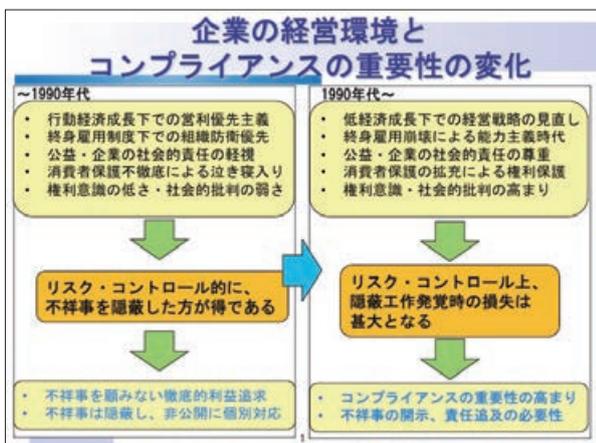
コンプライアンス・カード

### コンプライアンス実践の調査

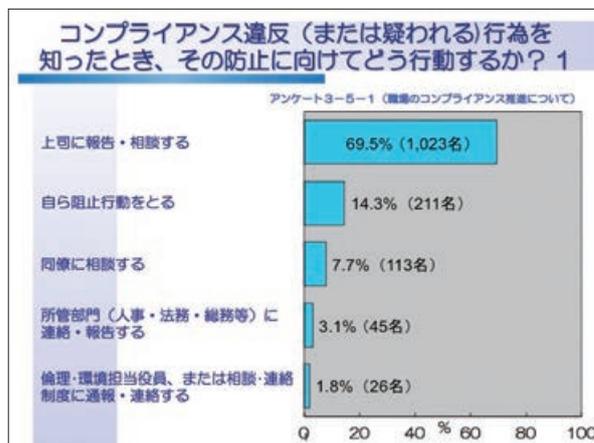
コンプライアンス意識の浸透度合いやコンプライアンス実践状況を確認し、更なるコンプライアンスの徹底を図るために、コンプライアンス実践状況の調査を実施し、集計・分析した上で各部門・職場にフィードバックしています。2016年度の全社員を対象とした社内アンケート回答率は88.4%であり、集計結果からは、法令・企業倫理遵守の意義に関する社員の理解度や意識の高まりが順調に推移していることが確認され、コンプライアンスの実践状況についても全体的に良好な結果が示されました。今後も調査結果を有効に活用しながら、更なるコンプライアンス推進体制の維持・構築に努めて参ります。



コンプライアンス実践状況の調査結果の一部 1



コンプライアンス教育資料



コンプライアンス実践状況の調査結果の一部 2

## 相談・連絡制度(ヘルプライン)

通常の職制を通ずることなく、社員がコンプライアンス違反やセクハラ、パワハラ、またはコンプライアンスに関する相談や連絡を行える制度として設けられています。相談者は倫理・環境担当役員もしくはCSR推進室コンプライアンス課、または外部の弁護士事務所に直接相談することができます。相談は匿名でも可能で、相談・連絡の方法は様々なルートを用意しています。

相談者の秘密は厳重に保護され、更に、本制度を適正に利用した相談者に対する不利益な取扱い、いやがらせなどは社内基準\*で明確に禁止されています。

また、社内基準では、相談・連絡の方法、倫理・環境担当役員及び担当者による当該事項の確認、問題解決処理及び事後の措置等の具体的な制度運営内容を定めています。

\*平成18年10月1日付で「相談・連絡制度運営規程」制定。  
平成26年4月1日付改訂。

## 情報セキュリティ教育

当社では、情報資産の適正な保護を目的として、2000年に制定したセキュリティポリシー(基本方針)に基づき、情報セキュリティの維持活動を推進しています。この一環として、毎年、各部署において情報漏えいなどの業務活動に潜む情報セキュリティ上のリスクとその対処方法について教育を行っており、社員意識の向上を通じて、情報セキュリティ事故等を未然防止するよう努めています。

## 個人情報の取扱い

法令遵守及び社会貢献の立場から、当社は、当社事業に有用な情報資産の管理に積極的に取り組んでいます。

特に『個人情報保護法』について本法における個人情報取扱事業者である当社は、個人情報の保護の重要性に鑑み、本法において規定される当社の責務を全うすべく、経済産業省その他関連省庁の個人情報保護法に関するガイドラインに従い、2004年12月にプライバシー・ポリシーを制定し、2005年3月以降、「個人情報の保護及び利用に関する規程」、その他の社内規程を整備しております。

また、当社の事業活動における個人情報の利用目的

を当社のホームページに公表し、個人情報に関する苦情・相談窓口を設置しております。

当社では、個人情報の管理において、これを営業秘密に準じて取扱っており、社内規程に従い全部門において個別の内部基準を策定し、管理の徹底を図るとともに、外部持出しパソコンのデータの暗号化など、物理的・技術的な安全管理措置にも積極的に取り組んでいます。

さらに、2006年2月には、情報セキュリティ強化委員会を設置し、経営企画部門、IT部門、総務部門、法務部門など、専門分野の異なる担当者をメンバーとして、ハード面・ソフト面その他あらゆる角度から全社的な情報セキュリティ対策に取り組んでいます。

また、2016年1月に運用が開始されたマイナンバー制度への対応として、2015年10月に特定個人情報(マイナンバー等)取扱規程を制定するとともに、特定個人情報を取扱う部署ごとに業務マニュアルを作成し、個人番号(マイナンバー)を含む特定個人情報の適切な利用及び保護を推進しています。

当社は、今後も社内体制の整備を推進し、個人情報を含む情報資産の保護と活用を図って参ります。

## プライバシー・ポリシー [序文]

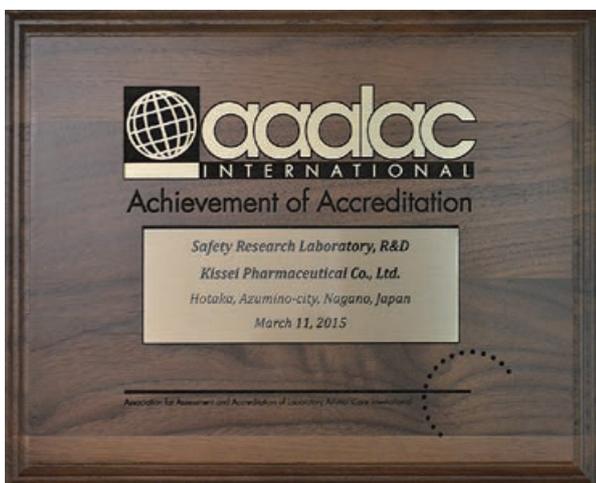
当社は、企業活動の上で取り扱う個人情報について、法令及び社内諸規程の規定を遵守したうえ、これらを適切に管理、保護し、患者さん、顧客、取引先、株主等の利害関係者、当社の役員及び社員へ安心できるサービスの提供・向上を目的として、個人情報の保護に関する方針を定め、これを実行します。

### 動物福祉に配慮した動物実験

当社では、実験動物を使用するにあたり、動物福祉の観点からも適切に実施されるように、「キッセイ薬品工業 動物実験指針」に則り、各研究所の動物倫理委員会の審査を経て実施しております。同指針は、「動物の愛護及び管理に関する法律」及び当法律に基づいた「動物の処分方法に関する指針」、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」、並びに「厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針」の趣旨を十分に反映したものであり、動物数の削減(Reduction)、代替試験法の積極的な採用(Replacement)、苦痛の軽減(Refinement)を念頭において作成されております。2016年の動物を用いた実験の実施状況については自己点検・評価を行い、動物実験が適正に実施されていることを確認いたしました。



動物倫理に関する指針等



AAALAC認証盾

### ヒューマンサイエンス振興財団認証取得

中央研究所並びに薬物動態研究所の動物実験施設について、2015年に第三者認証機関であるヒューマンサイエンス振興財団による施設実地調査が実施され、両研究施設が動物実験施設として更新認定されました。「動物の愛護及び管理に関する法律」の改定により、実験動物の規制強化が求められています。

今回の第三者認証の取得は、当社が厚生労働省より通知された「厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本方針」に基づいて、適正に実験動物飼育と動物実験実施を行っている証になります。



ヒューマンサイエンス振興財団認証書

### AAALAC認証取得

2015年3月には、当社安全性研究所が、唯一の国際的第三者評価機関であるAAALAC International\* (以下、AAALAC)より、国際水準施設としての完全認証(Full Accreditation)を取得しました。AAALACは、Institute for Laboratory Animal Research(ILAR)ガイドブックに基づいて動物実験施設を評価・認証する50年の歴史を有する権威ある国際的機関(非営利団体)です。AAALAC認証されることにより、国際的な基準に合致して実験動物の飼養/保護/管理が適切に行われている施設であることが客観的に証明されたことになります。

\* Association for Assessment and Accreditation of Laboratory Animal Care International : 国際実験動物ケア評価認証協会  
自主的な審査と認証プログラムを通して、科学における動物の人道的な管理などを推進する民間非政府組織

# 社会性活動について

## 社会との関わり

当社は、良き企業市民として、地域とのつながりを重視しています。地域文化、医療、健康、福祉、環境、スポーツなどそれぞれの分野で積極的な活動を展開し、社会貢献活動を続けています。

### 地域文化への貢献 —— 地域文化を育み、未来へ ——

1946年(昭和21年)に信州・松本の地で創業以来、当社は全国各地から海外へと事業拠点を拡大してまいりましたが、現在も地域社会とのつながりを大切にし、郷土に根ざした企業であり続ける社風が息づいています。特に、「人々の健康で豊かな暮らしのお手伝いを」という信念から、地元から古くから伝わり、心の拠り所となっている大切な社会的・文化遺産の保存や教育文化施設の建設にも協力してきました。その中から主な活動内容を紹介します。

### 医療、健康への貢献

#### ①公益財団法人 神澤医学研究振興財団

1997年6月27日、当時の代表取締役会長神澤邦雄からの私財の提供並びに当社の創業50周年を記念しての資金提供により設立されました。

設立当時、出生率の低下及び平均寿命の伸長は、近い将来深刻な少子・高齢社会を出現させ、社会経済的に重要な課題となることが予想されていました。この課題解決のために医療面から女性の健康の保持・増進に貢献することは大きな意義を有するものと考えられました。このような背景の下に、周産期を中心とするリプロダクティブ・エイジ及び高・老年期の女性に発現する各種疾患に関する成因、予防、診断、治療等の多角的な研究(以下、対象研究)の奨励等を行うことにより、医療・医学の発展を図り、もって国民の健康と福祉の向上に寄与することを目的として運用されています。

この目的を達成するため、対象研究に関する以下の事業を行っています。

- (1) 研究助成
- (2) 海外留学助成
- (3) 優れた研究成果に対する褒賞(神澤医学賞)
- (4) 講演会等の開催

これまで(1997年～2016年)の褒賞及び助成件数並びに金額の累計は以下のとおりです。

	件数	金額
神澤医学賞	18件	5,300万円
研究助成金	197件	21,200万円
海外留学助成金	74件	3,700万円

#### <2016年度 神澤医学賞>

主たる研究者：河村 和弘 准教授

研究機関：聖マリアンナ医科大学医学部産婦人科学

研究テーマ：卵巣機能不全に対する新たな不妊治療「卵胞活性化療法」の開発



神澤医学賞授賞式



受賞者講演会

②医学界、地域等への貢献と透明性確保

当社は、医学界、地域等への応分の寄附を継続し、それらの発展に寄与しています。

2011年12月には社会から更に高い信頼性を得られる「創薬研究開発型企业」になることを目指して、「企業活動と医療機関等の関係の透明性に関する指針」を制定しました。

また、2013年4月には「企業活動と患者団体との関係の透明性に関する指針」を制定しました。

区 分	詳 細
指定寄附金	国公立大学、赤い羽根共同募金等
特定公益法人	私立大学、財団法人、日本赤十字等
学会協賛	学会、研究会等
その他	地域への寄附等

③信州大学へ寄附講座開設

当社は、2010年4月1日より信州大学医学部に寄附講座を開設しました。本寄附講座は、脊髄小脳失調症(SCA)及び筋萎縮性側索硬化症(ALS)等の神経難病病因・病態の解明を目的とします。

また、当社は、2012年4月1日より信州大学医学部内に創薬科学講座(共同研究講座)を開設しました。

大学と当社が協働して創薬科学のレベルを高め合い、創薬科学を担う人材育成及び新薬テーマの発掘を行います。その成果のひとつとして、当社は、信州大学が行っているキメラ抗原受容体(CAR)技術を用いたがんの免疫細胞療法(CAR-T療法)の研究に参画しています。本研究は、2017年に日本医療研究開発機構(AMED)の「革新的がん医療実用化研究事業」に採択されています。

本講座は、大学と当社の連携体制を強化して地域協働体制を築き、医療シーズ・ニーズを受けとめることによる新薬創出の機会の増加及び医薬品研究開発に関わる人材の育成などを目指し、最終的には、科学技術の振興及び産業と社会の発展とに寄与することを目的とします。これまでの大学への依存度が大きい寄附講座とは異なり、大学と当社が合意した創薬科学講座設置契約に基づき、大学と企業が共にリソースを提供しながら、協働して教育、情報交換、新薬テーマの創出、及び事業化を目指した研究開発を推進します。

設 置 期 間：2012年4月1日～2018年3月31日

教員及び研究員：教授1名、特任教授1名、

特任准教授1名、特任助教2名

共同研究講座の予算：当社が負担

④順天堂大学へ寄附講座開設

当社は、2012年4月より順天堂大学大学院医学研究科に寄附講座を開設しました。

本講座は「免疫病・がん先端治療学講座」で、がん、免疫病、アレルギー疾患などの基礎から応用に至る研究が推進され、新規治療法の開発等、医療の向上に貢献できることが期待されています。

特に、悪性中皮腫などのがん細胞の膜上に多く発現する膜貫通型の糖タンパク質であるCD26の機能の解析、CD26抗体の分子作用機構の解析、CD26に特異的に結合するリガンドの分子生物学的解析、及びその臨床応用の研究等を行います。

⑤信毎健康フォーラム

当社は、信濃毎日新聞社及び信毎文化事業団が主催し、年4回、長野県下において開催される「信毎健康フォーラム」に協賛しています。

本フォーラムは、信州大学医学部などの専門の先生方が、糖尿病、



信毎健康フォーラム(信濃毎日新聞提供)

高血圧、メタボリックシンドロームなど、人びとの関心の高いテーマについて、一般の方々を対象に、講演やパネルディスカッションを通じて日常生活に役立つ健康知識を分かりやすく提供するものです。

当社は、人びとの健康の保持・増進に資することを目的に、1994年開催の第1回目から協賛しており、2017年4月には第90回となるフォーラムが開催されました。

## 福祉への貢献

### ①児童福祉施設への寄付

地域社会貢献の一環として、2006年より本社・松本工場及び塩尻地区で開催する文化祭での募金活動やチャリティーバザーの売上金等を児童福祉施設である「松本児童園」に寄付しています。

また、文化祭で「オーガニックコンポスト」を販売しました。「オーガニックコンポスト」は、環境に優しいリサイクル有機肥料で、土壌改善、作物の育成に適しており、その収益金を含めて寄付しています。



チャリティーバザー

### ②エコキャップ

ペットボトルのキャップを集めて、廃棄物業者へ引き渡しています。廃棄物業者ではキャップを再生原料に加工し、その売上金の一部をNPO法人へ寄付しています。

また、キャップを焼却処分しないで再資源化することは、二酸化炭素の排出削減にも繋がります。



エコキャップ受領証明書

### ③ブックドネーション

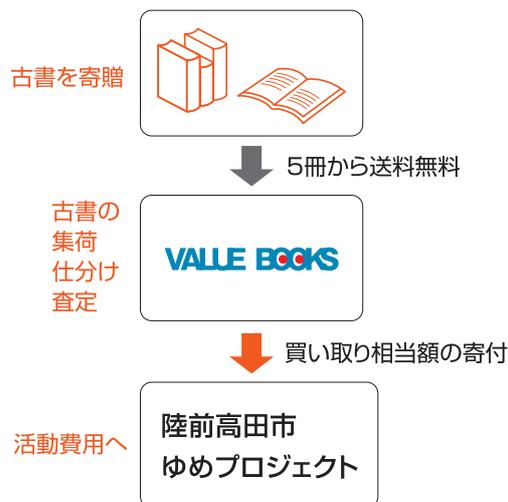
ブックドネーションは、会社や家庭で不要になった書籍を社会で再び利用するために編み出された活動のひとつです。

この活動は、長野県上田市にある古本買い取り専門会社のバリューブックス社が回収した書籍を査定して、予め指定した団体にその買い取り相当額を寄付するというものです。

現在の寄付先は「陸前高田市図書館ゆめプロジェクト」です。東日本大震災で失われた図書館が2017年7月に再建されました。

当社及びグループ会社は、2010年9月よりこの活動を開始し、今までに約5,000冊の書籍をバリューブックス社へ送りました。

### 「ブックドネーション」の流れ



### ④自治体への車椅子の寄贈

当社は、2016年8月に創立70周年を迎えました。

創立70周年を記念して日頃よりご支援を賜っている地域の皆さまへの感謝の意を込めて、本社近隣の自治体に公共の施設でご利用いただく車椅子を寄贈いたしました。

当社は今後も、「純良医薬品を通じて社会に貢献する」、「会社構成員を通じて社会に奉仕する」の経営理念のもと、真摯に活動して参ります。

## 環境への貢献

2016年度は以下の様な地域清掃活動を実施しました。

時期	主催	活動内容
5月	キッセイ薬品	キッセイ薬品の各事業所周辺の歩道、側溝の清掃(ごみゼロ運動)
	松本市環境衛生協議会連合会	松本市中心部の道路、公共施設の清掃(ごみゼロ運動)
	東京都中央区「クリーンデー」&むろまち小路を洗う会	東京本社周辺の歩道の清掃
6月	松本南商工五和会一斉清掃活動	本社周辺の木工団地町内会の清掃
	松本市河川をきれいにする会連絡協議会	松本市内の町内会の河川一斉清掃
7月	日本橋を洗う会、国土交通省	企業、地域住民、公務員の共同による日本橋(東京都中央区)の清掃
9月	松本市河川をきれいにする会連絡協議会	松本市内の町内会の河川一斉清掃
10月	エコ・ウォーク「クリーン塩尻」	塩尻市内の工業団地周辺の清掃
11月	松本市環境衛生協議会連合会「散乱空き缶等追放キャンペーン」	松本市中心部の道路、河川緑地の清掃
	松本南商工五和会一斉清掃活動	本社周辺の木工団地町内会の清掃
	キッセイ薬品	キッセイ薬品の全国事業所及びグループ会社周辺の歩道、側溝及び公園を中心とした公共施設の清掃
12月	穴田川をきれいにする会	企業、地域住民、自治体の共同による河川の清掃
3月	穴田川をきれいにする会	企業、地域住民、自治体の共同による河川の清掃



キッセイ薬品ごみゼロ運動



穴田川の清掃活動

## 音楽文化への貢献

### セイジ・オザワ 松本フェスティバル

音楽は、世界共通の言葉です。人びとが共感し、感動できる文化活動を応援し、育んでいくことは、企業の重要な役割である、とキッセイは考えています。

1992年9月から毎年1回、キッセイのふるさと、松本で開催される音楽祭「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」は、2015年から「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」として新たなステージへと踏み出しました。

世界屈指のマエストロ小澤征爾氏のもとに、世界中から優れた音楽家たちが結集し、サイトウ・キネン・オーケストラを中心にオペラやコンサートなど、心に響く最高水準の音楽を日本から世界に向けて発信しています。

当社は、サイトウ・キネン財団の理事として、この音楽祭に第1回より協賛し、現在、当社長が本フェスティバルの実行委員長を務めています。



©大窪 道治



©大窪 道治

セイジ・オザワ 松本フェスティバル

## スポーツへの貢献

### ①市民タイムス旗早起き野球大会

松本市の新聞社「市民タイムス」は、野球を通じて生きがいや友情・連帯を育み、地域の活性化、スポーツ文化の振興を目的に、毎年、少年野球大会、早起き野球大会を開催しています。

当社は、本大会への協賛を行い、地域の人々の健康増進と交流に貢献しています。



少年野球大会(市民タイムス提供)

### ②信州チャレンジスポーツDAY

長野県体育センターは、1978年に長野県で開催されました「やまびこ国体」を契機に設立され、生涯スポーツの振興・普及に努めています。

当社は、このセンターが参加者の健康意識の高揚や体力の向上を目指すとともに、より豊かなスポーツライフの実現を図る目的で開催しています「信州チャレンジスポーツDAY」に協賛しています。



信州チャレンジスポーツDAY(長野県体育センター提供)

### ③ 駅伝、マラソン、陸上競技大会

当社は、県民の心身の健全な発展に寄与することを目的に、長野県市町村対抗駅伝競走大会や長野県陸上競技選手権大会など一般財団法人長野陸上競技協会が主催する競技会及び、塩尻市ぶどうの郷ロードレース、信州安曇野ハーフマラソンや長野県障害者スポーツ大会など多くの協賛を行っています。



長野県市町村対抗駅伝競走大会

### ④ 松本山雅フットボールクラブの支援

当社は、人びとの健康を願う企業として、また、地域社会への貢献活動の一環として、松本山雅フットボールクラブをオフィシャルスポンサーとして応援しています。

松本山雅フットボールクラブは1965年に長野県松本市において結成され、2010年にJFL(日本フットボールリーグ)、2012年にJ2へ昇格しました。2015年には念願のJ1に昇格を果たしました。

当社は、サッカーを通じ、地域に元気と活力をもたらし、未来ある子供たちと地域の人びとに夢と感動を与えられるような「まちづくり」と「ひとづくり」に貢献することをビジョンに掲げ活動している当クラブを応援しています。



松本山雅 フットボールクラブ ©松本山雅 FC

### ⑤ 野球部による少年野球教室開催

当社の野球部は、地元中学生チームを対象とした野球教室を開催しました。

野球部では以前より野球を通じて地域社会へ貢献をしたいと考えていたところ、野球部OBが指導するチームからの依頼を受けて、野球教室の開催となりました。

全員入り混じってのアップ、キャッチボールから始まり、当社選手によるシートノックのデモンストレーション、ポジション別指導やランナーを置いたケースノックなどを半日にわたり行いました。

今回の教室で教えると同時に参加者からの感想で逆に気づかされることもあり、野球部にとっても有意義な機会でした。

このような社会貢献を通じて野球部自らも成長して、更なる全力プレーを行っていきます。



野球部による少年野球教室

## その他

### ①親子科学工作教室

2009年から松本市教育文化センター主催の「親子科学工作教室」に協力しています。これは、小学生の親子を対象に、遊びながら科学のおもしろさを学び、子供たちの理科離れを解消しようという試みです。本教室は月1回開催されており、そのうちの2回を当社の研究員達が講師として担当し、創薬研究の特長を活かした体験学習の場を提供しています。



親子科学工作教室

### 〈過去の主なテーマ〉



1. プチプチ人エイクラ



2. ナスニン  
(pHの違いによる色の変化)



3. ペーパークロマトグラフィー  
(アサガオの作成)



4. 弾むシャボン玉

### ②学生の会社見学

最近、将来の進路を選択するために学生の企業見学が増えており、当社の施設見学の希望も年々多くなっています。

2016年度は薬学生や長野県内の高校生や中学生などが中央研究所を見学しました。



研究所見学

### ③テニスボールリユース活動

当社のテニスクラブの活動で不要になったテニスボールは、NPO法人が推進する「スポーツエコネット」を通じてリユースしています。

このボールを学校の机と椅子の脚に取り付けることで、子どもたちが静かで落ち着いた環境で勉強できるようになります。

今までに学校へ寄付したボールは835球となりました。

これからもテニスクラブではスポーツを通じて地域社会に貢献していきたいと考えています。

## 患者さまとの関わり

### くすり相談の窓口

当社では1995年に「くすり相談センター」を設置し、医療関係者(医師、薬剤師他)のみならず、患者さんやその家族などからの様々なお問い合わせに対応しています。2014年10月からは、社内MRからの問い合わせにも対応を開始しました。

医薬品は、「両刃の剣」の性格を持っており、患者さんの病状や体質に合わせて適切に使用されることで有効かつ安全に効果を発揮します。したがって、医薬品を安全かつ有効に使用するための情報提供は、医療関係者や患者さんにとってとても大切なことです。

くすり相談センターの役割は、医療関係者及び患者さんやその家族との相談対応業務を通じて医薬品の情報提供と適正使用を図り、医薬品の有用性を高めることです。そして、的確・迅速・丁寧な対応により製品及び会社への信頼を高め、お客様の満足度向上に貢献することです。また、お客様からいただいたご意見を社内で共有し製品改良に活かすよう取り組んでいます。

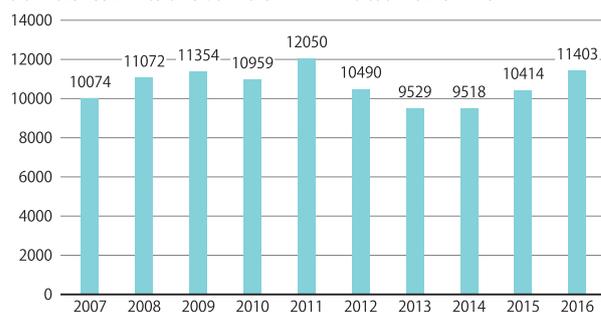
### くすり相談の現況

#### 1) 相談件数

くすり相談センター設置以来社外からの相談件数は年々増加傾向にありましたが、ここ数年は年間約10,000件前後で推移しています。この近年のコンスタントな相談件数実績には、後程ご紹介する弊社のホームページ上で開示している医薬品情報の充実も影響しているものと考えています。(図1)。相談件数は新製品の発売や効能追加などがあると、それら製品に対して相談の需要が増加します。ここ10年間では、前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬ユリーフ錠(2009年2月発売)、遺伝子組換えヒトエリスロポエチン製剤エポエチンアルファBS注(2010年5月発売)、速効型インスリン分泌促進薬/食後過血糖改善薬配合剤グルベス配合錠(2011年7月発売)、アントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤の血管外漏出治療剤サビーン点滴静注用(2014年4月発売)、勃起不全治療薬剤シルデナフィル錠(2014年9月発売)、サラジェン顆粒(2014年12月発売)、ドプラム注射液の早産・低出生体重児における原発性無呼吸(未熟児無呼吸発作)の効能追加(2015年3月)等と現在の主力製品の発売があり、相談もこれら主力製品に関するものが多くを占めています。それに加え2015年度には高リン血症治療剤ピートルチュアブル錠(2015年

11月発売)、2016年度には前述のユリーフの剤形追加としてユリーフOD錠(2016年1月発売)、グルファストOD錠(2016年6月発売)も新発売され、これらに関しても多くの方々からお問い合わせを頂いています。特にサビーンは症例が極めて限定されているうえ、発症後6時間以内の投与が必要な薬剤であり、使用時の緊急問い合わせにも対応できるようサビーン専用のダイヤルを設置しています。医薬分業による調剤薬局の増加や、医薬品の情報入手先として、企業のくすり相談窓口の存在が広く認知されてきており、その役割は益々重要となってきています。なお、2013年10月よりフリーダイヤルを設置し、より相談のしやすい窓口を目指しています。

図1. 相談件数の推移(くすり相談センター回答、社外のみ)



#### 2) 相談者、相談内容の内訳

相談者の内訳をみると、薬剤師が82.3%を占め、医師1.5%、その他の医療関係者11.6%を合わせると、95.4%が医療関係者からの問い合わせでした(図2)。また施設別では調剤薬局が55.3%を占め、病院が34.3%という状況でした(図3)。特に薬剤師からの問い合わせが多いのは、医薬分業が進んだこと、製剤に関する情報や適正使用の情報ニーズが高まっていることが背景にあると考えられます。また、患者さん等からの相談は2.6%でした。比率としては少ないものの、医薬品に対する関心が一層高まり、その有効性や安全性に関するより詳しい情報を求めている相談が増えてきています。

図2. 相談者別

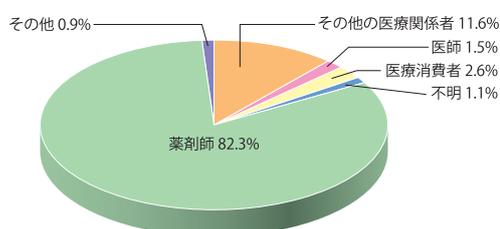
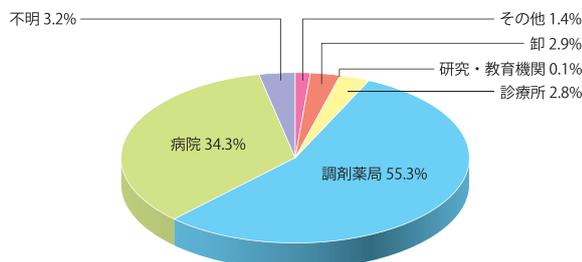
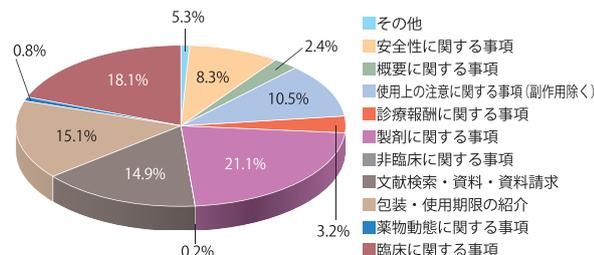


図3. 相談施設別



相談内容の内訳は、臨床(用法・用量、適応疾患等)18.1%、製剤(安定性等)21.1%、包装・使用期限15.1%、文献・資料請求 14.9%、使用上の注意が 10.5%、安全性情報(副作用等)8.3%でした(図4)。使用上の注意及び安全性情報に関する相談は増加傾向にあり、医薬品の適正使用への関心がますます高まってきていることを反映していると考えられます。また、患者さんへの服薬指導のため、薬剤師からの使用方法・保管方法に関する問い合わせも多くを占めています。なかでも高齢な患者さんの増加に伴い薬剤の一包化・分割・粉碎の可否、保管時の安定性などの製剤に関する問い合わせ、包装変更にもなう使用期限等の問い合わせが増加しています。

図4. 相談内容別



くすりの基本情報をWebサイトに紹介

医薬品の情報は添付文書の改訂、包装変更などによって随時変化しています。近年のインターネットの普及による医薬品情報のIT化や、在宅医療に伴う薬局の24時間化などの環境変化に対応し、医療関係者の皆様が、最新の情報を何時でも入手できるよう、医療関係者向けホームページに製品情報を掲載しています。添付文書、インタビューフォーム、製剤写真などの基本情報ははじめとして、添付文書改訂のお知らせ、包装変更等のご案内、くすりのしおり、患者さん向け冊子、研究会・セミナーのご案内、安定供給体制等に関する情報も掲載しています。また、2012年より新たに、製品に関する比較的多い問い合わせについて「製品

Q&A」を掲載しましたが、2014年3月には「医療関係者の皆様へ」のトップページに、「製品Q&A」のリンクを設置し、利便性の向上をはかりました。今後も常に最新の情報が掲載されるよう、正確なメンテナンスを行うとともに、必要な情報にアクセスしやすいホームページを目指して参ります。

(<http://www.kissei.co.jp>)



医療関係者向けWebサイト

医薬品に関するお問い合わせ

くすり相談センター TEL: 03-3279-2304  
 フリーダイヤル 0120-007-622  
 0120-858-801(サビーン専用)  
 (土日祝日、当社休日を除く月～金 9:00～17:40)

キッセイクルの発行

当社は、独自の医療関係者の方々への情報提供を目的として、1983年7月より医学情報誌「キッセイクル(KISSEI KUR)」を発行しています。医学分野でのトップオピニオンの対談をはじめ、当社製品関連の医療技術の展望といった専門的なコンテンツばかりでなく、信州創業の企業という特色を生かして信州の自然を紹介するといった、気軽に読めてかつ有用な情報をお届けできる紙面構成となっています。誌名のクル(Kur)はドイツ語で治療(英語のCure)を意味しますが、「クル」という爽やかな語感とともに多くの医療関係者の皆様に愛読いただける編集を心掛けています。

2008年12月には全面的なリニューアルを行い、年4回、各号約7万部を全国の医師・薬剤師といった医療関係者の方々にお届けしています。



キッセイクル

## MRを通じた情報収集と情報提供

医薬品の承認・販売までの情報は、限られた条件下で実施された臨床試験から収集されたものであり、多くの患者さんに医薬品をより適切にお使いいただくためには、承認・販売後も引き続き安全性と有効性について調査していく必要があります。

承認・販売後に得られる患者さんの安全性や有効性の情報は、医療関係者や患者さんから当社くすり相談センターに直接寄せられるものや、MRの情報収集活動において医療関係者から報告される副作用情報などがあります。また、新しい医薬品の販売後には数百から数千人の患者さんを対象とした製造販売後調査や製造販売後臨床試験等を実施して、安全性や有効性に関する情報を体系的に収集することもあります。現在、当社では多くの医療関係者や患者さんのご協力をいただいて、グルファスト錠、ドプラム注射液、サビーン点滴静注用、ピートルチュアブル錠などの調査及び試験を実施しています。

こうして収集された情報に基づき、当社安全性情報部では患者さんに安全に医薬品を使用していただくため、安全性に問題はないか常に検討を行っています。検討の結果、新たな安全性情報の提供が必要と判断した場合は、医療関係者を中心に幅広く迅速に情報提供を行っています。

また、当社は自社創製品の海外展開を積極的に推進しており、北米、欧州、アジア諸国など諸外国で販売される当社製品については、海外の提携会社との間で安全性情報の交換を積極的に行っています。このように海外の提携会社から収集した安全性情報を評価・集約し、国内のみならず世界各地の患者さんに当社製品を安全に使用していただけるよう安全対策活動を行っています。



症例検討会議

## 安全性・有効性情報などの活用

### 1) 安全性情報提供システム

当社は2006年10月から独自に開発した安全性情報提供システムを用い、医療現場において副作用などの問合せに迅速に対応しています。このシステムにより、MRが携帯するiPadと安全性情報部で作成した安全性情報のデータをリンクさせて、オン・デマンドで即時に情報を提供することが可能となりました。

医療関係者へ提供できる安全性情報は、副作用の件数、程度、転帰等を一目で見ることができ一覧表「副作用プロファイル」と、個別症例の情報を見ることができ「ラインリスト」の2種類です。

これらの情報を迅速に提供することにより、当社製品をより適切に、より安全に使用していただくことができるとともに、医療関係者から当社MRがより信頼されるようになりました。

### 2) 副作用情報の分析・提供

ピートルチュアブル錠におきましては、承認後に市販直後調査を適切に実施し、適時的確に副作用の発現状況等を医療関係者に提示することで新薬の適正使用を推進して参りました。

当社医薬品の使用に際し、特に注意が必要な副作用については顧問医師を招いた症例検討会を開催し、慎重に検討を行っています。集積されたデータを用いて発現傾向・背景などの分析を行い、患者さん及び医療関係者に向けて適正使用推進のための情報を提供しています(適正使用資材、More Safety等)。

### 3) 製造販売後調査成績の集計・提供

製造販売後調査等で収集された安全性・有効性に関する情報は、集計・解析の後、その結果を取りまとめた冊子の配布などを通じて調査にご協力いただいた医療関係者にフィードバックしています。また、学会誌等への掲載によってより広範な関係者に周知されることもあります。



More Safety

以上のように、当社では患者さんに当社製品を有効かつ安全に使用していただけるよう様々な取り組みを行っています。

## 社員との関わり

### 人事制度に対する考え方

当社の人事に対する基本的な考えは「様々な考え方や価値観の人が相互に認め合い、刺激を与え合うことが企業にダイナミズムと創造性をもたらす」という観点に立脚しています。

雇用形態、就労形態、人事処遇制度など労働環境の整備を進め、社員の適性やライフプランを考慮する多選択型人事制度をはじめ、みなし勤務制度やフレックスタイム制度など柔軟な労働時間制度を多くの部署で導入し、多様な人材がそれぞれの能力を発揮できるよう配慮しています。

### 目標管理制度

当社の目標管理制度は、評価制度ではなくマネジメントツールであると位置づけて、目標設定にウェイトを置いています。各職場が上げるべき成果は何かを真剣に考えて、個々の役割を明確にし、目標達成に向けて自立的な行動を実践することができれば、社員個々の成長が会社の成長と結び付くことになると考えています。

### 人材育成

人材育成の目的を「社員が個人としても組織人としてもその持てる力を最大限に発揮すること」とし、育成すべき人材像を「人材育成ビジョン」として定めています。ビジョンの実現のため中長期的に各種人材育成施策を有機的に展開し継続的・計画的な育成を図っています。



新任管理職研修

### <人材育成ビジョン>

- ①会社の社会的使命を認識し、会社の発展に寄与・貢献する、優れた創造力と強い責任感及び実行力ある自立型社員を育成する。
- ②経営と技術の革新に即応した会社業務の遂行に必要な知識、能力の向上を図り、組織目的の能率的達成を推進し得る有能な企業人を育成する。
- ③広い視野をもち、豊かな教養と円満な人格を備え、良好な人間関係を築き得る誠実でかつ人間性豊かな社会人を育成する。

### 休暇制度

#### ①年次有給休暇の取得促進

当社では、法定を上回る年次有給休暇を付与すると共に、使用を促進するために年2日間の全社一斉有給取得(2016年度)、年3日間のメモリアル休暇制度(計画取得する有給休暇制度)を設定し、更に時間を単位とした取得も特に上限なく可能としています。2016年度の有休消化率は51.1%でした。

※有休消化率は、当年度付与分のみに対する取得の割合。

#### ②リフレッシュ休暇、慶弔休暇

勤続年数が10年、20年、30年の節目を迎えた年度には5～10日間のリフレッシュ休暇が付与されます。また、結婚、配偶者出産など社員本人や家族に慶弔が発生した際にも1～6日間の慶弔休暇が取得できます。

### 労使関係の状況

当社には企業内労働組合が存在しませんが、全社員の代表十数名と経営側の代表とで労使協議会を設置しています。人間主体を志向する時代の流れを捉えて、より新しく豊かな労使関係を創造することを目的とする労使協議会は、社員の社会的経済的地位の向上、共同福利の増進、会社の社会的責任の完遂を図るために定期的に開催されています。

### 人事に関する意識調査

「人事に関する意識調査」は、人事制度や業務に関する社員の考えを知り、働きやすい環境を整えることを目的としています。今までに2005年、2009年、2013年、2016年の4回実施しました。調査結果は社内報などを通じて全社に公開されると同時に、新たな人事施策の策定、実施につなげています。

### 労働安全衛生

社員の安全、安心、信頼の労働環境を確保するために、環境基本法、労働安全衛生法、その他関係法令ならびに自社就業規則の遵守はもちろんのこと、環境安全防災委員会を中心に安全衛生の取り組みを実施しています。

本社、工場、研究所では、事業所の安全衛生部会が中心となり、新入社員への安全教育、定期的な職場パトロールの実施、作業環境測定による職場環境の維持、普通救命講習の実施、社内報・ポスター掲示による安全意識の啓発などの安全衛生への取り組みを行っています。安全衛生部会の議事録は社内電子掲示板に掲載され、社員全員に周知しています

当社の労働災害の発生状況の推移は下記の表のとおりです。いずれも軽微なケガで、重大な事故等はありませんでした。

また、MR職への交通事故防止教育については、入社時での実技中心による講習は勿論のこと、その後も定期的な教育・啓発を実施し、特に複数回の事故経験者に対しては自動車教習所などの専門センターにて個別教育を実施する等、交通事故防止に努めています。

### 労働災害の発生状況の推移

年度	2012	2013	2014	2015	2016
発生件数	0 (3)	0 (3)	0 (4)	1 (2)	0 (5)
度数率	0.00	0.00	0.00	0.31	0.00
強度率	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

※発生件数：休業1日以上業務災害件数

( )内は休業なしの業務災害件数

度数率：100万労働時間当たりに発生する休業1日以上死傷者数

強度率：1000労働時間当たりに傷害のために失われる労働損失日数

### AEDの設置

各事業所にAED(自動体外式除細動器)を設置しています。社員の万が一に対する備えだけでなく、当社への来訪者が急に倒れられた時や近隣住民の方にもお使いいただけるようにしています。

また、消防署の指導による普通救命講習を実施し、社員がいつでもAEDが使えるように訓練を受けています。



普通救命講習



新人安全防災教育



新人MR交通事故防止教育

### ヤングドライバークラブ交通事故防止コンクール

長野県安全運転管理者協会では県内の企業の交通安全への取り組みを評価する「ヤングドライバークラブ交通事故防止コンクール」を実施しています。



ヤングドライバークラブ表彰式

当社のヤングドライバークラブは、コンクールの運動実施期間において、無事故・無違反であるとともに、交通安全活動への積極的な取り組みが評価され2004年の結成以来、13年連続して最優秀賞を受賞しました。



ヤングドライバークラブ啓発活動

### 総合訓練

本社・松本工場を対象に、火災が発生したという想定での総合訓練を実施しました。

訓練では、本社・松本工場勤務の全員による避難訓練、自衛消防組織による初期消火訓練、応急救護訓練を実施しました。

### キッセイ薬品BCP

大規模災害(震度6以上の大地震)を想定した「キッセイ薬品BCP 松本平大規模災害編及び東京地区大規模災害編」を制定しました。

BCPマニュアルに従って社員の安否確認を行うとともに、主力医療用医薬品及びヘルスケア食品の生産・供給、重要な研究データの保全、くすり相談センターの業務を継続させることを目的としております。

### 安否確認システム

大規模地震や集中豪雨などの広域災害に備え、2008年10月より社員と会社との連絡手段として「安否確認サービス(e-革新：セコムトラストシステムズ(株)提供)」を導入しました。

震度5強以上の地震発生時には自動で、また、大規模災害発生時には手動で、安否確認メールが災害エリアの社員に送信されます。このメールに社員自らの安否、出社可否、家族の状況、家屋の状態などを登録することにより、社員とその家族の状況を把握することができます。

当社では、定期的に安否確認システムによる訓練を行い、社員が操作方法を理解しているか確認しています。

また、社員手帳に「大規模地震発生時の注意事項」を掲載して、安否確認サービスの利用方法の説明を行っています。

## 社員の健康維持

### ①健康診断

健康診断を年1回実施しています。健診の検査項目は35歳以上の社員には生活習慣病予防健診、40歳以上では腹部エコー検査を追加し、また50歳以上には前立腺がん検査または骨密度検査を追加するなど、幅広い検査を提供し社員の健康維持に役立てています。また、女性社員には婦人科がん検診の受診を勧奨し、検査費用の補助を行っています。

健診結果のフォローアップも行っており、特定保健指導や再検査の受診勧奨など、社員の健康管理の推進を図っています。社内の健康相談室には保健師が常駐し健康相談を行っています。また、保健師は定期的に事業所を訪問し、健診結果のフォローや保健指導、メンタルヘルス相談などの健康相談を実施しています。



社員健康相談

### ②外部の専門機関への電話による健康相談

#### 一笑顔でヘルシーダイヤル

病気の悩み、育児の不安、身体の不調、不意の事故、薬の疑問、メンタルヘルス、お年寄りのケア、医療・福祉機関の情報など、健康について困った時や知りたい時は、外部の専門機関への電話による健康相談ができるようになっていきます。

専門機関の保健師、看護師を中心に経験豊かな専門スタッフによる相談が受けられます。

### ③Webによる健康相談

健康保険組合ではWeb上で健康相談、健康セルフチェック、健康まめ知識などの情報提供を行っています。



web上での健康情報提供

### ④メンタルヘルスへの取り組み

当社では健康相談体制の充実のほか、健康保険組合や人事部からの積極的な情報提供、新任管理職等を対象としたメンタルヘルス研修を実施しています。

長時間労働者に対しては、事業場内産業保健スタッフ等による健康相談を実施しています。

また、社員のストレスの程度を把握し、社員自身のストレスへの気付きを促すとともに、職場環境の改善につなげ、働きやすい職場づくりを進めることによって社員がメンタルヘルス不調になることを未然に防止することを目的として、年1回ストレスチェックを実施しています。

#### ーその他メンタルヘルスを意識した活動ー

- ・毎週水曜日、給与・賞与支給日にノー残業デーを設定
- ・年次有給休暇の計画的付与として、一斉有給休暇日を2日間設定
- ・職場の人間関係の円滑化を図るため、職場での行事に会社が費用面で支援
- ・各種クラブ・同好会の設置及び会社が費用面で支援

### ⑤「キッセイ健康宣言」の制定

当社は、「純良医薬品を通じて社会に貢献する」ことを経営理念に掲げ、行動憲章においても「世界の人々の健康及び医療の向上に貢献する」ことを謳っています。これら経営理念、行動憲章の実現のために、まず社員一人ひとりが、こころとからだの両面において健康でなければならないという考えから、2017年4月に「キッセイ薬品健康宣言」を制定しました。

キッセイ薬品は、社員及びその家族の健康保持、増進に努めるとともに、社員一人ひとりが、「生きがい」や「働きがい」を感じながら、その能力を十分に発揮できる、健康的で活力のある職場風土づくりを目指しています。

### キッセイ薬品健康宣言

2017年4月1日制定

『私たちは、医薬品をはじめとする、優れた製品を開発し提供することにより、世界の人々の健康及び医療の向上に貢献します』。(キッセイ薬品行動憲章より)

そのためには、まず社員一人ひとりが、こころとからだの両面において健康でなければなりません。

キッセイ薬品は、社員およびその家族の健康保持、増進に努めるとともに、社員一人ひとりが、「生きがい」や「働きがい」を感じながら、その能力を十分に発揮できる、健康的で活力のある職場風土を醸成します。

1. 会社および健康保険組合は、社員の健康問題を経営上の重要課題として認識し、社員のこころとからだの健康保持、増進に向けた環境整備と機会提供に努め、健康で働きやすい職場づくりを推進し、社員の会社生活と個人生活との調和(ワークライフバランス)に積極的に取り組みます。
2. 社員は、「自分の健康は自分で管理する」というセルフケアの重要性を認識し、こころとからだの健康づくりのために、自己の健康保持、増進に積極的に取り組みます。

### 次世代育成への取り組み

当社は、社員が仕事と子育てをはじめとする家庭生活を両立させることができ、社員全員にとって働きやすい環境をつくることによって、全ての社員がその能力を十分に発揮できるような雇用環境の整備に取り組んでいます。

このような取り組みが評価され、2008年、2011年、及び2015年に次世代育成支援対策推進法\*に基づく基準適合一般事業主認定(通称「くるみん」)を取得しました。

2015年4月からの第4期行動計画期間においても、新たな行動計画を策定し、ワークライフバランスの実現に向けて取り組んでいます。

\*次世代育成支援対策推進法：次代の社会を担う子供が健やかに生まれ、育成される環境の整備を行う「次世代育成支援対策」を国や地方公共団体・企業が一体となって進めるために制定された法律

#### 一次世代支援に関する当社の主な取り組み一

##### 第1期行動計画期間

(平成17年4月1日～平成20年9月30日)

- ・期間中の女性社員の育児休業取得率の向上
- ・育児短時間勤務制度の対象を、小学校就学未満の子を持つ従業員にまで拡大
- ・期間中に男性社員2名が育児休業を取得(男性社員としては初めての取得)

##### 第2期行動計画期間

(平成20年10月1日～平成23年3月31日)

- ・期間中に男性社員4名が育児休業を取得
- ・配偶者出産時の休暇や男性の育児休業取得に関する情報提供
- ・子の看護休暇制度及び育児短時間勤務制度について法を上回る内容にて改正実施
- ・松本本社にて「子ども参観日」を実施

##### 第3期行動計画期間

(平成23年4月1日～平成27年3月31日)

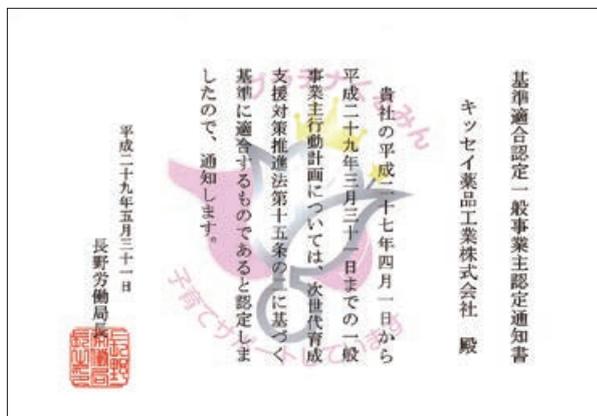
- ・男性の育児休業取得促進(期間中に男性社員延べ7名が育児休業を取得)
- ・当社のワークライフバランス施策に関する情報配信、社内研修等での周知、意見交換会、アンケートなどの実施

- ・時間外労働に関する適正運用の推進
- ・中央研究所にて「子ども参観日」を実施

第4期行動計画期間

(平成27年4月1日～平成29年3月31日)

- ・妊娠中や出産後の女性労働者に対する諸制度の周知や情報提供を実施
- ・期間中に男性社員13名が育児休業を取得
- ・配偶者出産時の慶事休暇付与日数の改定と休暇取得促進
- ・管理職研修において、女性社員の育成や、働きながら子育てを行う女性社員が就業を継続し活躍できるようにするために必要な働き方等を考える研修の実施
- ・時間外労働削減への取組推進、目標削減率の達成
- ・有給休暇取得促進への取組推進、目標取得率の達成
- ・塩尻工場にて「子ども参観日」を実施



プラチナくるみん認定通知書



子ども参観日

塩尻工場にて「子ども参観日」を実施しました。これは子どもたちが勤労観、職業観を身につけるために職業を身近に触れる機会として親の職場を訪問するもので、次世代育成支援施策の一環として実施しました。

本社・松本工場、中央研究所・製剤研究所に続いて、今回は3度目の実施となりました。塩尻工場勤務者の子女で小・中学生を対象に参加者を募集しました。工場見学では専用被服に着替え、エアシャワーを浴びてから入場し、生産ラインが実際に動いているところを見学しました。子どもたちは、機械化された製造工程を薬が流れるように進む様子に驚きの表情を見せたり、微細な異物も見逃さない取り組みに感心したりしていました。



子ども参観日

女性の職業生活における活躍推進への取り組み

当社は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」に基づく一般事業主行動計画を策定し、女性社員がその個性と能力を十分に発揮して職業生活において活躍ができるよう、さらなる基盤整備に取り組んでいきます。

－女性活躍に関する当社の主な目標－

(平成28年4月1日～平成30年3月31日)

- ・採用者に占める女性採用割合の増加
- ・女性社員の平均勤続年数の増加
- ・「人事に関する意識調査」を実施し、調査結果に基づく人事施策の検討

# 環境保全活動について

## [全社の環境保全活動] キッセイ薬品環境基本方針

当社は、全ての企業活動において環境への負荷低減と環境の保全に努めています。

当社の経営理念に基づき、行動憲章(2005年4月改定)において「環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存続と活動に必須の要件であることを認識して、自主的、積極的に取り組みます」と定めています。

それを受けて、環境基本方針では、基本理念と6項目の基本方針を定めています。

これからも、この環境基本方針に基づき、積極的かつ継続的な環境保全活動への取り組みを推進します。

### 環境基本方針

平成16年4月1日 改訂

#### 1 基本理念

キッセイ薬品は明日の健康を見つめる創薬研究開発型企业として、企業の社会的責任において積極的に地球環境保全に努めるとともに、豊かで住み良い社会の実現に貢献します。

#### 2 基本方針

- (1) 製品の研究、開発、生産、流通、販売、使用、廃棄など一連の企業活動が環境に与えるさまざまな影響を評価し、環境への負荷低減の活動を推進します。
- (2) 地球環境保全の取り組みのため、環境目的、目標を定め実行し、定期的な見直しを行い継続的改善を図ります。
- (3) 省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、リサイクルを積極的に推進することにより環境負荷の低減に努力し、汚染の予防に努めます。
- (4) 関連する環境法規、協定及び当社が同意したその他の要求事項について遵守するとともに、自主基準を設定し更なる環境保全に取り組みます。
- (5) 社員一人ひとりが、環境教育を通じて環境に対する意識の高揚と倫理観の向上を図り、積極的に環境汚染の未然防止のための活動を推進します。
- (6) 当社は地球環境問題を真摯に受止め、キッセイグループとともに環境保全に努めます。

# 環境マネジメントシステム

## 環境マネジメントシステム組織

当社の環境マネジメントは、ISO14001環境マネジメントシステムを基本にして推進しています。環境マネジメントシステム組織は右図の様に、総括環境管理責任者として倫理・環境担当役員を設けて全社の環境マネジメントの維持・管理、運営を行い、また、各事業所に環境管理責任者を設けて事業所毎に環境マネジメントシステムの維持・管理、運営を行っています。各事業所では環境部会が中心になり、環境目的・目標等の立案、設定、実施、見直しを図り、環境保全活動を推進しています。

2000年9月に本社・松本工場、塩尻工場、ヘルスケア事業センター、2006年9月には第二研究所、東京本社(日本橋、小石川)で、2007年9月には中央研究所・製剤研究所でISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得しました。

また、キッセイグループ会社においても、各社で環境保全活動を推進する体制を整備しています。

キッセイコムテック、ハシバテクノスでは、下記の表の様にISO14001を認証取得し、環境マネジメントシステムの維持・管理、運営を行っています。

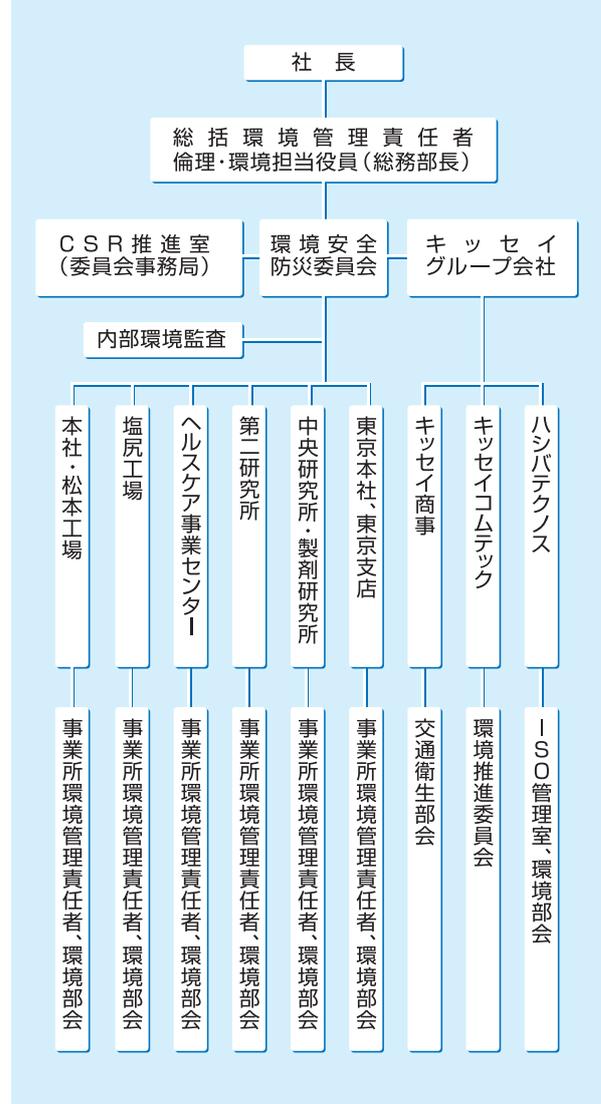
### ISO14001の認証取得状況

キッセイ薬品	取得年月
本社・松本工場	2000年9月
塩尻工場	2000年9月
ヘルスケア事業センター	2000年9月
東京本社	2006年9月
第二研究所	2006年9月
中央研究所	2007年9月

グループ会社	取得年月
キッセイコムテック株式会社	2002年6月
ハシバテクノス株式会社	
建築部、住宅部、管理部	2002年2月
施設管理部(キッセイ薬品と共通)	2000年9月

環境マネジメントシステム組織図



ISO14001認証書

## 環境保全に関する総合計画と実績

環境基本方針を具体化するため、環境目的・目標を設定して活動しています。

2016年度の全社の環境目的・目標及び活動実績、2017年度の全社の環境目的・目標は下記のとおりです。

環境目的	2016年度目標	2016年度実績	2017年度目標
エネルギーの使用量を削減する	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気、重油、ガス等の原油換算エネルギー使用量を原単位で前年度比1%削減する。</li> <li>エネルギー管理標準等を用いてエネルギー使用の合理化に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー使用量は原油換算で前年度336kL(3.6%)減少した。</li> <li>省エネ法のエネルギー管理標準に従ってエネルギー使用量を管理した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気、重油、ガス等の原油換算エネルギー使用量を原単位で前年度比1%削減する。</li> <li>エネルギー使用の合理化のため、エネルギー管理標準の見直しや設備の運用改善に取り組む。</li> </ul>
二酸化炭素の排出量を削減する	<ul style="list-style-type: none"> <li>二酸化炭素排出量を原単位で前年度比1%削減する。</li> <li>車利用による二酸化炭素排出量を削減する(エコドライブ、アイドリングストップ、ノーマイカーデーの推進等)。</li> <li>フロン機器の管理を適正に行いフロン類の漏えいを防ぐ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二酸化炭素排出量は前年度比994トン(4.8%)減少した。</li> <li>フロン機器の簡易点検を定期的実施した。</li> <li>リース期間満了による入れ替え車両22台をハイブリッド車両に切り替えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二酸化炭素排出量を原単位で前年度比1%削減する。</li> <li>車利用による二酸化炭素排出量を削減する(エコドライブ、アイドリングストップ、ノーマイカーデーの推進等)。</li> <li>フロン機器の管理を適正に行いフロン類の漏えいを防ぐ。</li> </ul>
資源の使用量を削減する	<ul style="list-style-type: none"> <li>原材料、原資材、業務用資材(紙等)等の使用量を削減する。</li> <li>事務用品のグリーン購入を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダンボールのリユースを推進した。</li> <li>文具・事務用品のグリーン購入率はほぼ100%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原材料、原資材、業務用資材(紙等)等の使用量を削減する。</li> <li>事務用品のグリーン購入を推進する。</li> </ul>
廃棄物を削減する	<ul style="list-style-type: none"> <li>3R (Reduce, Reuse, Recycle)を推進し、廃棄物の最終処分率(最終処分量/廃棄物発生量を3%以下にする)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物のリサイクル率は82% (再資源化量トン/廃棄物発生量トン)だった。</li> <li>最終処分量は13トンで、最終処分率(最終処分量/廃棄物発生量)は3.6%だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3R (Reduce, Reuse, Recycle)を推進し、廃棄物の最終処分率(最終処分量/廃棄物発生量を3%以下にする)。</li> <li>分別回収により3R活動を意識化する。</li> </ul>
化学物質を適切に管理する	<ul style="list-style-type: none"> <li>有害化学物質の使用量を削減する。</li> <li>試薬管理システムによる化学物質管理を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PRTR*該当物質については全て管理対象とし、取扱量、排出量の把握を行った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有害化学物質の使用量を削減する。</li> <li>試薬管理システムによる化学物質管理を推進する。</li> </ul>
社会貢献活動に参加する	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域環境整備活動または社会貢献活動に年2回以上参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月、11月に地域環境整備活動を実施した。</li> <li>「穴田川をきれいにする会」への協力と清掃活動に参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域環境整備活動または社会貢献活動に年2回以上参加する。</li> </ul>
環境教育及び啓発活動を実施する	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境教育及び環境啓発活動を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境目的・目標の説明、環境保全活動など社内報による啓発を行なった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境教育及び環境啓発活動を実施する。</li> </ul>
当社の環境への取り組みをステークホルダーに理解してもらう	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSR報告書の発行や環境関連調査の回答等による環境情報を公開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSR報告書による環境情報の開示を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSR報告書の発行や環境関連調査の回答等により環境情報を公開する。</li> </ul>

\* PRTR(Pollutant Release and Transfer Register)：化学物質排出移動量届出制

## 環境監査

### ISO14001外部監査

2016年度は外部認証機関によるISO14001の第5回更新審査後の維持審査を受けました。その結果、改善の機会4件の観察点がありました。観察点は今後の改善につなげていきます。

その他、重大な指摘はなく、当社の環境マネジメントシステムが適切に維持管理されていることが確認されました。



ISO14001維持審査

## 環境に関する啓発活動及び教育・研修

### 啓発活動

当社は、環境基本方針に則って環境に関する啓発・教育・研修を実施しています。部門責任者、グループ会社責任者を対象とした主要な会議等の場において、環境に対する基本方針を繰り返し説明し、組織に浸透させています。

CSR推進室では、社内ネットワークや社内報を通して、生物多様性問題などの地球環境問題を始めとする社内外の環境に関連する情報の提供や当社の環境目的及び目標に関する解説等を行い、全社員の環境に対する意識を高めています。

当社は、地球温暖化防止対策の一つとして、クール・ビズ、ウォーム・ビズを実施しています。夏季には暑さをしのぎやすいノーネクタイで、冬季にはベストやカーディガン等の着用で業務が行なえるようにしています。



クール・ビズ実施のご案内

### 内部環境監査

ISO14001認証取得事業所では、環境マネジメントシステムの適切な維持・管理を確認するために、年1回、内部環境監査員による内部環境監査を実施しています。

2016年度の結果は、軽欠点が1件、改善提案が6件報告されました。

内部環境監査結果は、環境マネジメントシステムの改善、見直しの資料として、社長、総括環境管理責任者へ報告されています。

今後は省エネルギー及び環境保全の推進のため、ISO14001：2015版に適合するように環境パフォーマンスの改善が確認できるマネジメントシステムにしていきます。

### 教育・研修

新入社員に対しては、入社時の教育の際に、環境、労働安全衛生、防災に関する教育を実施しています。

また、各事業所並びに各部門では、業務内容に則して独自の環境目的及び目標を設定し、その達成のために、継続的に環境教育を実施しています。

環境マネジメントシステムを適切に維持管理する上で、内部監査は重要な役割を果たします。そのため、内部環境監査員の定期的な教育や育成のための外部研修機関による研修を実施しています。

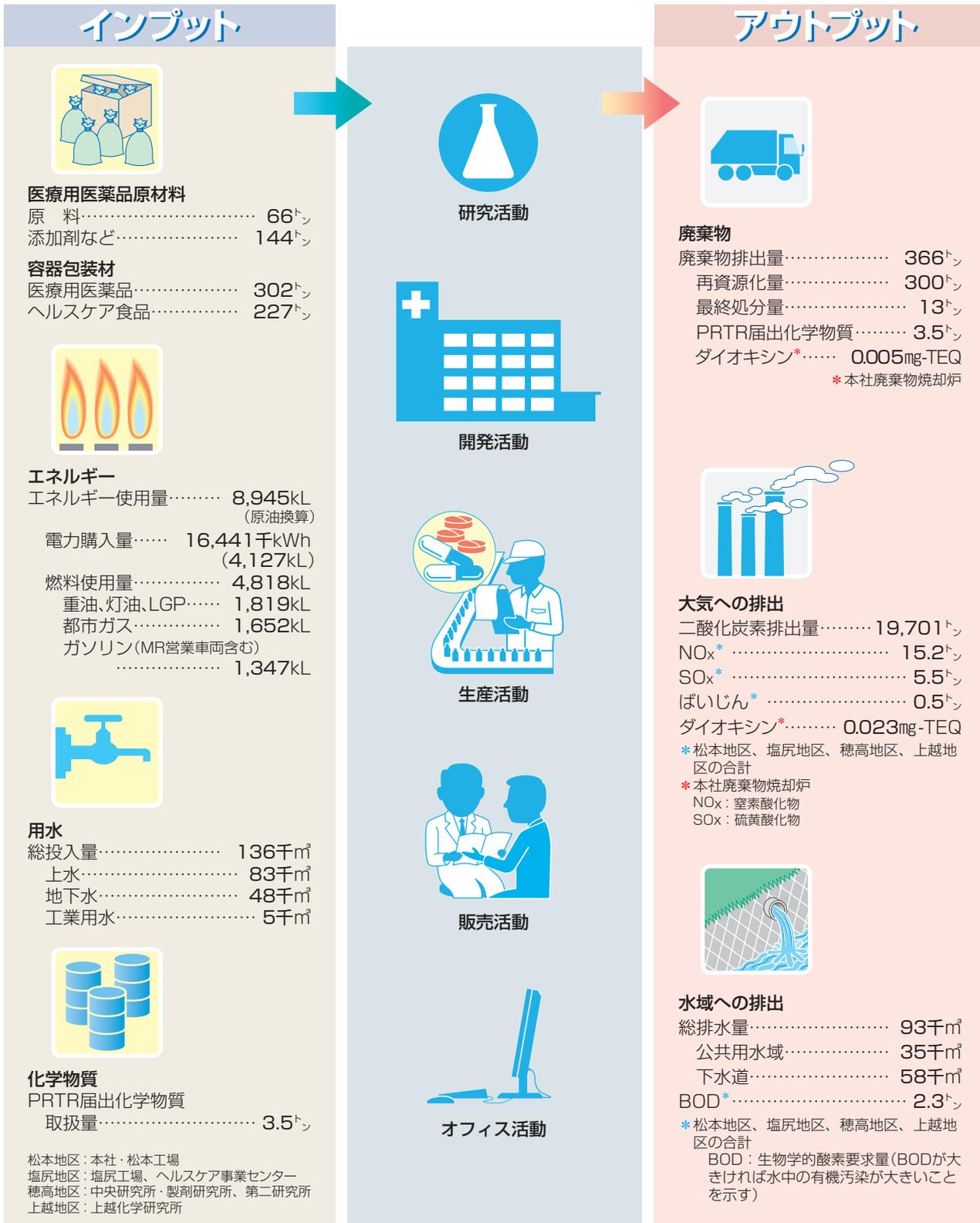


新入社員教育

# キッセイ薬品と環境との関わり

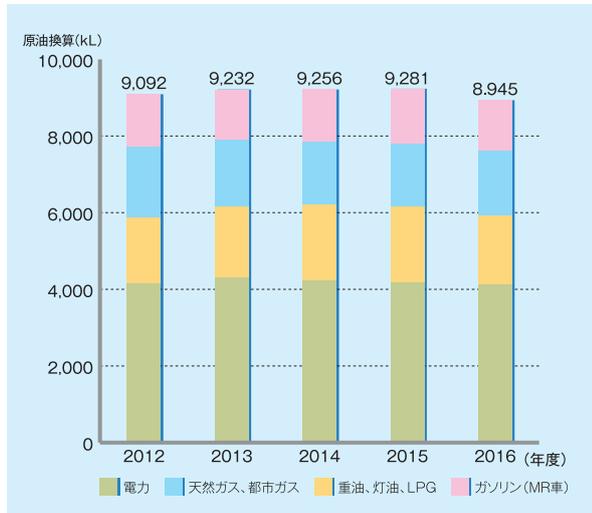
当社の2016年度の資源投入量(インプット)と研究、開発、生産、販売などの各プロセスにおいて発生する排出量と廃棄物量(アウトプット)を以下の図に示します。

これらの環境データを把握して、環境負荷低減に取り組んでいます。



## 環境保全活動の実績

### エネルギー使用量の推移



2016年度のエネルギー使用量は8,945kL(原油換算)で前年度より336kL(3.6%)減少しました。これは、製造設備や空調機器の稼働時間の見直しを行ったためです。

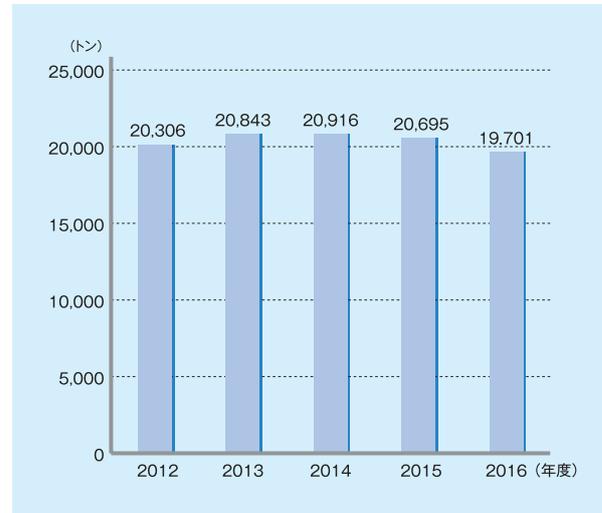
エネルギー管理標準に従ってエネルギー使用量の管理を行うとともに、運用改善を検討してエネルギー使用の合理化に取り組んでいます。

また、2016年度も前年度と同様に夏場の電力使用量のピークカットに取り組みました。

### 種類別エネルギー使用量の推移(原油換算 kL)

年度	2012	2013	2014	2015	2016
電力	4,180	4,287	4,258	4,206	4,127
重油、灯油、LPG等	1,688	1,860	1,963	1,927	1,819
都市ガス	1,831	1,728	1,653	1,694	1,652
ガソリン (MR営業車両)	1,393	1,357	1,382	1,454	1,347
合計	9,092	9,232	9,256	9,281	8,945

### 二酸化炭素排出量の推移



2016年度の二酸化炭素排出量は19,701トンで前年度より994トン(4.8%)減少しました。これは、省エネ型の設備に更新、製造設備や空調機器の稼働時間を見直したためと電力会社の二酸化炭素排出係数が前年度より改善したためです。

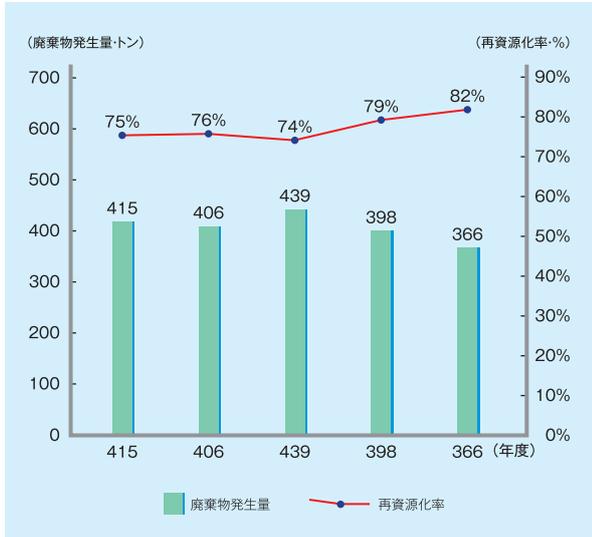
### 種類別二酸化炭素排出量の推移(トン)

年度	2012	2013	2014	2015	2016
電力	8,620	8,987	8,859	8,468	8,125
重油、灯油、LPG等	4,526	4,986	5,266	5,170	4,880
都市ガス	3,538	3,340	3,195	3,275	3,193
ガソリン (MR営業車両)	3,622	3,530	3,596	3,782	3,503
合計	20,306	20,843	20,916	20,695	19,701



空冷チラー

### 廃棄物発生量の推移



2016年度の廃棄物の発生量は366トンで前年度より32トン(8.0%)減少しました。

2016年度の再資源化率は82%で、前年度より3ポイント上昇しました。廃棄物の分別を徹底して行い、リサイクル可能なものは再生利用を推進しています。

また、廃棄物の発生量を削減するために、廃プラスチック類、鉄屑、廃パソコン等は有価物としての売却を進めています。

2016年度の最終処分量は13トン、最終処分率は3.6% (最終処分量\* / 廃棄物発生量) でした。

\* 最終処分量：直接埋め立て量 + 中間処理後埋め立て量

### 最終処分量の推移



年度	2012	2013	2014	2015	2016
廃棄物発生量 トン(A)	415	406	439	398	366
リサイクル量 トン(B)	312	307	325	315	300
再資源化率 (B/A)	75%	76%	74%	79%	82%
最終処分量 トン(C)	19	20	18	14	13
最終処分率 (C/A)	4.6%	4.9%	4.1%	3.5%	3.6%

### グリーン購入

松本地区、塩尻地区、穂高地区、上越地区では、文具・事務用品は購買システムによりほぼ全品、環境への負荷が少ないグリーン商品を購入しています。



グリーン商品

## 化学物質管理

### PRTR(Pollutant Release and Transfer Register : 化学物質排出移動量届出制度)

特定化学物質名 (単位)	2015年度 対象事業所 取扱量	2016年度			
		対象事業所 取扱量	排出量		移動量
			大気	水質	
ノルマル-ヘキサン (トン)	2.6	2.2	0	0	2.2
アセトニトリル(トン)	1.8	1.3	0	0	1.3
ダイオキシン類* (mg-TEQ)	0.597	0.028	0.023	0	0.005

事業所の取扱量が1トン以上の化学物質 \*：本社廃棄物焼却炉

各研究所では化学物質の適正使用、管理に努めております。2016年度のPRTR法指定化合物で年間取扱量が1トンを超えた物質は、中央研究で使用しているノルマルヘキサン、アセトニトリルでした。

ノルマルヘキサン等の有機溶媒は冷却トラップを装着して可能な限り回収を行ない、大気中への拡散を防いでいます。

アセトニトリルは液体クロマトグラフィーの展開溶剤として使用していますが、全量を回収し廃棄処理を専門業者に委託しております。

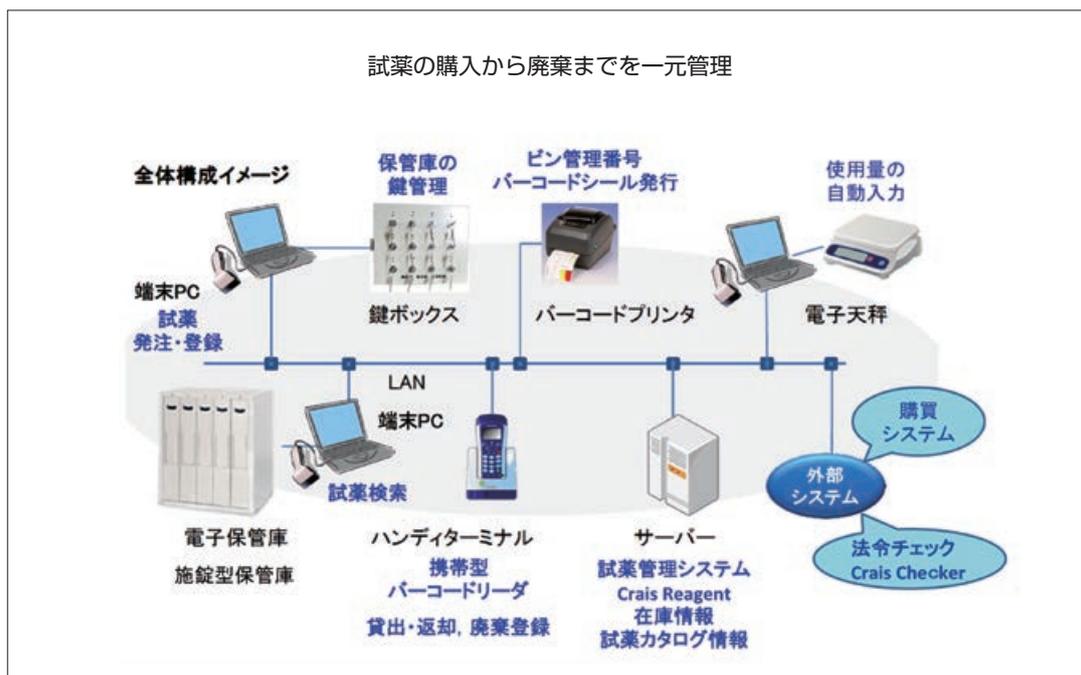
研究所で使用している試薬類について、購入から保管、廃棄までを一元管理し、全ての在庫を効率的に把握できる試薬管理システムを導入しました。

このシステムは法規制対応、化学物質リスクアセスメントに活用しています。



冷却トラップ

### 試薬管理システム



試薬管理システムのネットワーク(ハトコア様制作資料を改編)

## 省エネルギー推進、地球温暖化防止対策体制

当社は、省エネ法の特定事業者指定されています。また、本社・松本工場と中央研究所は第二種エネルギー管理指定工場です。

合理的なエネルギーの使用を推進するため、エネルギー管理規程、エネルギー管理標準を整備し、環境安全防災委員会が中心となって省エネルギー活動に取り組んでいます。

本社・松本工場、塩尻工場、中央研究所、上越化学研究所ではBEMS(Building and Energy Management System)を導入して、エネルギー使用量を把握し、エネルギー消費におけるロス、ムダの削減に取り組んでいます。

また、当社の省エネルギー活動はコンサルティング会社との協働で進めています。コンサルティング会社は、BEMSに蓄積された電気や空調などの運用データなどを解析し、それをベースにした総合的な観点で設備の運用改善等の省エネルギー施策を提案しています。

省エネルギー活動の推進は、二酸化炭素排出量の抑制にもつながります。当社は、コンサルティング会社のエネルギー管理システムを活用して、各事業所のエネルギー使用量や二酸化炭素排出量の見える化を行い、エネルギー使用量や二酸化炭素排出量の削減の啓発を行っています。

省エネルギー推進、地球温暖化防止対策体制組織



## 環境会計

事業活動における環境保全コストの把握のため、2004年度から環境会計を導入しています。

今後も環境会計に取り組み、より効率的な環境経営を目指します。

対 象 期 間：2016年4月1日～2017年3月31日

集 計 の 範 囲：当社の全事業所

集 計 方 法：環境省の「環境会計ガイドライン2005年度版」を参考

投資額及び費用額：投資額はその年度での環境関連設備投資額で、費用額は環境保全を目的とした発生額で、減価償却費は含まれていません。

### 環境保全コスト

(千円)

環境保全コストの分類		投資額	費用額	
事業内 エリアコスト	①公害防止コスト	大気汚染防止、水質汚濁防止等の維持管理	33,569	10,805
	②地球環境保全コスト	省エネルギー対策、省エネルギー機器等	406,164	3,540
	③資源循環コスト	廃棄物の減量化、リサイクル及び処理・処分費用等	0	32,978
上・下流コスト		容器包装再商品化委託料	0	4,196
管理活動コスト		ISO14001の維持管理、CSR報告書作成、事業所及び事業所周辺の緑化、美化、環境管理活動人件費等	36,939	3,694
研究開発コスト		--	0	0
社会活動コスト		環境保全団体への協賛金等	0	0
環境損傷対応コスト			0	0
合 計			476,672	55,213

### 環境保全効果

	2015年度	2016年度	増減率
二酸化炭素排出量*1	20,695 <sup>ト</sup>	19,701 <sup>ト</sup>	-4.8%
エネルギー使用量(原油換算値)	9,281kL	8,945kL	-3.6%
電力購入量(昼間、夜間買電の合計) (原油換算)	16,726千kWh (4,206kL)	16,441千kWh (4,127kL)	-1.7%
重油、灯油、LPG使用量*2	1,927kL	1,819kL	-5.6%
都市ガス使用量*2	1,694kL	1,652kL	-2.5%
ガソリン(MR営業車両)*2	1,454kL	1,347kL	-7.4%
水使用量	153千m <sup>3</sup>	136千m <sup>3</sup>	-11.1%
排水量	99千m <sup>3</sup>	93千m <sup>3</sup>	-6.1%
廃棄物発生量	398 <sup>ト</sup>	366 <sup>ト</sup>	-8.0%
再資源化量	315 <sup>ト</sup>	300 <sup>ト</sup>	-4.8%
廃棄物最終処分量 (直接埋立量+中間処分残渣)	14 <sup>ト</sup>	13 <sup>ト</sup>	-7.1%

\*1 電力の二酸化炭素排出係数は各年度の電気事業者別実排出係数を使用

\*2 原油換算量

## [事業所の環境保全活動]

### 本社・松本工場

所在地：〒399-8710  
長野県松本市芳野19番48号

#### 主たる活動

本社：本社機能  
松本工場：医療用医薬品の製剤製造



本社本部長

#### 環境関連法に関するデータ

大気	ボイラー*1		自家発電機		廃棄物焼却炉	
	基準値	測定値	基準値	測定値	基準値	測定値
NOX(m <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> N)	150	34	600	490	250	82
SOX(m <sup>3</sup> N/hr)	3.5	<0.013	1.8	<0.017	0.56	<0.0084
ばいじん(g/m <sup>3</sup> N)	0.1	<0.007	0.5	<0.008	0.15	0.021
ダイオキシン(ng-TEQ/m <sup>3</sup> N)	-	-	-	-	5	0.014

窒素酸化物は基準酸素で換算した後の値 \*1 ガスボイラー  
最も測定値の高いものを掲載

#### 水質(公共用水域)

項目	基準値(条例)	測定値
排出量(m <sup>3</sup> /年)	-	23,970
pH	5.8-8.6	8.1
BOD(mg/L)	30	0.9
SS(mg/L)	50	<1

排水：専用の処理施設を経て公共用水域、公共下水道に放流  
排水量以外の測定値は、最も高い値を掲載  
pH：水素イオン濃度、BOD：生物化学的酸素要求量、SS：浮遊物量

#### 水質(公共下水道)

項目	基準値(条例)	測定値
排出量(m <sup>3</sup> /年)	-	30,268
pH	5.0-9.0	7.7
BOD(mg/L)	600	21
SS(mg/L)	600	36

#### 廃棄物

廃棄物の発生量(トン)	再資源化量(トン)	再資源化率(%)	最終処分量(トン)
115.0	92.9	80.8	5.1

最終処分量=直接埋立量+中間処分残渣量(焼却残渣、焼却外残渣)

### 報告

2016年度の松本工場では、口腔内崩壊錠やチュアブル錠などの重点戦略品目及び既存製品について、事故、回収もなく高品質製剤の安定供給を実現しております。製造作業に従事する一方、環境貢献に直結する様々な製品収率の向上施策についてスピード感を持って遂行し、環境負荷低減にも寄与することができました。

PDCAサイクルに則り作業方法を改善し、年間約600kgの医薬品廃棄量を削減し、焼却時に発生する二酸化炭素排出量も削減されました。また、遊休設備についてもリユース先を見出し、廃棄物の削減を達成しております。電力においても引き続きムダな使用を排除し、約5.6万kWh/年の削減も実現することができました。

環境マネジメントシステムにおいては、部門固有文書の整備を進めておりPDCAサイクルの運用強化を図っております。定期的な教育訓練、ごみゼロ運動への参加などを通じて社員一人ひとりの環境・安全への意識向上を図っており、2017年度も様々なアイデアが提案され、未来へ繋ぐ環境負荷低減に向けた取り組みを開始しております。

今後も、医薬品製造及び環境に係る法規制を遵守しながら更なる継続的改善を積極的に努め、生産活動を通じた環境保全、社会貢献活動による企業の社会的責任を達成して参ります。

## 塩尻工場

所在地：〒399-0711  
 長野県塩尻市片丘9637番地5  
 主たる活動：医療用医薬品の包装

### 環境関連法に関するデータ

#### 大気(ボイラー)

項目	基準値	測定値
NOX( $\text{cm}^3/\text{m}^3\text{N}$ )	180	90
SOX( $\text{m}^3\text{N/hr}$ )	7.0	0.027
ばいじん( $\text{g}/\text{m}^3\text{N}$ )	0.24	0.008

窒素酸化物は基準酸素で換算した後の値  
 最も測定値の高いものを掲載

#### 廃棄物

廃棄物の発生量 (トン)	再資源化量 (トン)	再資源化率 (%)	最終処分量 (トン)
62.6	52.7	84.2	1.8

#### 報告

塩尻工場は、北アルプスを一望できる自然豊かな塩尻市林間工業団地内に位置し、1994年10月に包装を主たる業務とした工場として竣工し、錠剤、散剤、注射剤、点眼剤等の医薬品の保管・検査・包装・市場への出荷を行っております。

当工場では、生産活動によるエネルギーの使用や廃棄物の発生などにより環境への負荷が生じます。われわれが取り組む環境保全活動は、企業が求める生産性の向上に直結しており、生産歩留まりを向上させ生産ロスを減らすことで追加生産や不良品の処理(廃棄やリサイクル)に係る余計なエネルギー消費を抑制でき、省資源、廃棄物削減に繋がります。当事業所では、これらの環境負荷低減策を個人レベルで提案できる制度を取り入れ、事業所員の意識を向上させております。

2016年度の環境負荷低減については、空調運転時間の最小化、照明器具のLED化や人感センサーへの交換等により、エネルギー使用量は原油換算値で前年度比2.3%の削減となりました。また、各設備の設定値、圧力値の見直しにより資材歩留り向上、ロス削減をしたことで廃棄物を削減し、環境負荷低減に寄与しております。



塩尻工場

#### 水質(公共下水道)

項目	基準値(条例)	測定値
排出量( $\text{m}^3/\text{年}$ )	-	4,115
pH	5.8-8.6	5.9
BOD( $\text{mg/L}$ )	20	6.4
SS( $\text{mg/L}$ )	30	8

排水：専用の処理施設を経て公共用水域に放流  
 下水道使用量以外の測定値は、最も高い値を掲載

環境保全活動では、毎年、事業所員全員で塩尻工場周辺及び近隣公園のゴミ拾いを行っております。環境保全活動に取り組むことは、地球環境への負荷低減に対する企業の社会的責任として、本年度も積極的に推進いたします。

また、環境に係る法規制の順守はもとより、ボランティア活動への積極的参加、社会との調和を根底に多方面からの工場見学の受け入れなどにも努めて参ります。



カートニングロボット

## ヘルスケア事業センター

所在地：〒399-0711

長野県塩尻市片丘9637番地6

主たる活動：介護・高齢者向けの食品や腎疾患、生活習慣病など食事療法に役立つ食品の開発・販売



ヘルスケア事業センター

### 報告

ヘルスケア事業センターは、塩尻工場に隣接しており、2001年5月竣工と同時にヘルスケア事業部の活動拠点として稼動しました。環境面では、塩尻工場と同じく2000年9月ISO14001を認証取得しました。

当事業部では、高齢社会の進展や在宅介護の増加といった時代の流れをとらえ、介護・高齢者向けの食品や腎疾患、生活習慣病などの食事療法に用いる食品を開発・販売しています。当事業部は、製品の入出荷・保管管理を担う物流エリア、製品の企画開発、品質管理を担う開発エリア、及び営業拠点としての事務所エリアから構成されています。また、製品は全てOEM\*生産であるために製造機能は有していません。

環境面において当事業部は、法規制対象となる施設・設備はなく、また現在、危険物・毒劇物の使用もありません。著しい環境側面を「産業廃棄物(賞味期限切迫品)の発生」とし、削減活動を展開してきましたが、2015年度後半より、廃棄食品を食品リサイクルとして処理する運用を開始したことにより、2016年度からは著しい環境側面を「産業廃棄物の発生」から「一般廃棄物の発生」に変更し運用しております。

\* OEM : Original Equipment Manufacturer

委託者のブランド製品を生産すること、または、生産するメーカーのこと

今後も省エネルギー、省資源等に重点をおいた目標

### 環境関連法に関するデータ

#### 水質

上水道使用量 899m<sup>3</sup>/年

当センターからの排水は塩尻工場の放流水と合流させて、水質は塩尻工場の放流口で管理しています。

#### 大気

当センターにはボイラー設備はありません。

#### 廃棄物

廃棄物の発生量 (トン)	再資源化量 (トン)	再資源化率 (%)	最終処分量 (トン)
22.6	22.1	97.8	0.5

を設定して活動を展開し、環境に係る法規制の遵守はもとより、環境マネジメントシステムによる環境保全活動を実践して、さらなる継続的改善を図って参ります。

当事業部では、慢性腎臓病に対する低たんぱく食事療法の啓発を目的に、腎臓病や腎臓病の食事療法についての講演会、当社ヘルスケア製品を使用した料理の試食会などを開催しております。対象の患者様、ご家族、医療関係者様、低たんぱく食事療法に関心のある方などが参加されています。



ヘルスケア事業部Webサイト



ヘルスケア食品を使った調理実習

## 中央研究所・製剤研究所

所在地：〒399-8304

長野県安曇野市穂高柏原4365番地1

主たる活動：新薬候補化合物の合成、薬理、製剤化、薬物動態に関する研究



中央研究所

### 環境関連法に関するデータ

#### 大気(ボイラー)

項目	基準値	測定値
NOX(m <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> N)	180	130
SOX(m <sup>3</sup> N/hr)	3.7	0.067
ばいじん(g/m <sup>3</sup> N)	0.3	<0.005

窒素酸化物は基準酸素で換算した後の値  
最も測定値の高いものを掲載

#### 廃棄物

廃棄物の発生量 (トン)	再資源化量 (トン)	再資源化率 (%)	最終処分量 (トン)
74.0	60.4	81.6	0.8

#### 水質(公共下水道)

項目	基準値(条例)	測定値
排出量(m <sup>3</sup> /年)	-	18,366
pH	5.0-9.0	8.0
BOD(mg/L)	600	180
SS(mg/L)	600	32

排水：公共下水道に放流  
排水量以外の測定値は、最も高い値を掲載

#### PRTR法対象化学物質

(単位：トン)

物質名	取扱量	大気排出量	移動量
ノルマル-ヘキサン	2.2	0.0	2.2
アセトニトリル	1.3	0.0	1.3

年間取扱量が1トン以上の物質を記載

### 報告

中央研究所及び製剤研究所は、豊かな自然に恵まれた安曇野市に位置しております。本事業所では、環境に関する法規制や自主管理基準の遵守、省エネや省資源化、環境負荷の低減等について、環境マネジメントシステムに基づいた環境保全活動を実践しております。設備面におきましては、ターボ冷凍機、空調機制御系インバータ、LED・人感センサー照明等の省エネ効果のある設備の導入、及びエネルギー消費実態の可視化ができる中央監視システムのBEMS\*機能の利用等、総合的かつ多岐に渡って地球温暖化防止に取り組んでおります。化学物質の管理においては、化学物質等の

購入、使用、保管及び廃棄を管理する試薬管理システムの機能をより強化し、関連する法規制への適正な対応をしております。

安曇野市は、地域住民、行政ともに環境への関心が高い地域であり、研究所からの排水等については、地域住民の皆様や安曇野市ご担当者の立ち会いのもとで、年二回の環境測定を実施しております。検査結果は毎月実施する排水水自主検査結果とともに安曇野市に報告しております。

また、近隣の皆様を招いての納涼祭の開催、地元中学生や県内高校生の研究所見学会、研究所周辺の清掃活動等を通じて、地域交流及び社会貢献を行っております。

医薬品は、薬機法等の厳しい規制を遵守し、高い倫理観を持って研究開発されます。この精神を環境保全活動にも生かし、安曇野の豊かな自然と共存できるよう、これからも努めて参ります。



納涼祭

\*BEMS :Building and Energy Management System

建物の使用エネルギーや室内環境を把握し、これを省エネルギーに役立てるためのシステム

## 第二研究所

所在地：〒399-8305

長野県安曇野市穂高牧2320番地1

主たる活動：新薬候補化合物の安全性に関する研究



第二研究所

### 環境関連法に関するデータ

#### 大気(ボイラー)

項目	基準値	測定値
NOX( $\text{cm}^3/\text{m}^3\text{N}$ )	180	92
SOX( $\text{m}^3\text{N}/\text{hr}$ )	10	0.037
ばいじん( $\text{g}/\text{m}^3\text{N}$ )	0.3	0.006

窒素酸化物は基準酸素で換算した後の値  
最も測定値の高いものを掲載

#### 水質(公共下水道)

項目	基準値(条例)	測定値
排出量( $\text{m}^3/\text{年}$ )	—	6,819
pH	5.0-9.0	7.6
BOD( $\text{mg}/\text{L}$ )	600	270
SS( $\text{mg}/\text{L}$ )	600	210

排水：公共下水道に放流  
排水量以外の測定値は、最も高い値を掲載

#### 廃棄物

廃棄物の発生量 (トン)	再資源化量 (トン)	再資源化率 (%)	最終処分量 (トン)
14.9	9.4	63.1	0.7

### 報告

第二研究所は2013年に新動物棟が建設されましたが、旧施設と比較すると動物飼育エリアをよりコンパクトに設計し、機能及び実験環境の効率化と維持コストの低減を図ると共に、省エネルギー面でも工夫がされました。しかし、増加傾向にあるエネルギー使用に対し、2016年度は外部の省エネアドバイザーの力を借りて、前年度に比較し電気量が1.5%、重油が10.5%減少し、CO2発生量も9.9%減少する事ができました。

当研究所は医薬品開発における創薬テーマの設定段階から、臨床試験の実施及び承認申請において必要な、非臨床安全性試験を主な業務として、厚生労働省の医薬品GLP規制下で試験を実施しております。

また、化学物質を扱うことの多い事業所として、試薬管理システムの導入及び化学物質の適正な保管と使用を徹底するため、頻繁に手順書の見直し並びに緊急時に対する教育を実施すると共に、年2回作業環境測定を行い作業者の健康被害の防止に努めております。

国営アルプスあづみの公園に隣接する当研究所は、社会貢献活動の一環で研究所周辺の地域環境整備として、年2回、始業前に全所員によるゴミ拾いを実施し、自然環境豊かな安曇野穂高の環境維持に協力しております。

また、安曇野市との「公害防止に関する覚書」に基づいて、外部機関による研究所排水の水質検査及びボイラーばい煙測定を年2回実施し測定結果を毎月、安曇野市及び地域住民へ報告しております。

また、測定当日は地域住民の代表者と安曇野市役所担当者に立会いをお願いし、地域住民の方々とのコミュニケーションを図るとともに、当社の環境への取り組みについてご理解を頂いております。



液体クロマトグラフ質量分析計(LC-MS/MS)

## 上越化学研究所

所在地：〒942-0145

新潟県上越市頸城区上吉197番地5

主たる活動：新薬候補化合物の工業化に関する研究



上越化学研究所

### 環境関連法に関するデータ

#### 大気(ボイラー)

項目	基準値	測定値
NOX( $\text{cm}^3/\text{m}^3\text{N}$ )	180	33
SOX( $\text{m}^3\text{N}/\text{hr}$ )	0.44	<0.009
ばいじん( $\text{g}/\text{m}^3\text{N}$ )	0.1	<0.005

窒素酸化物は基準酸素で換算した後の値  
最も測定値の高いものを掲載

#### 水質(公共下水道)

項目	基準値	測定値
排出量( $\text{m}^3/\text{年}$ )	—	5,661
pH	5.8-8.6	8.0
BOD( $\text{mg}/\text{L}$ )	40	0.8
SS( $\text{mg}/\text{L}$ )	50	<1

排水：公共下水道に放流  
排水量以外の測定値は、最も高い値を掲載

### 報告

上越化学研究所は原薬研究に特化した施設であり、安全性及び環境に配慮した工業化プロセスの研究開発・確立、国の定める「治験薬の製造管理、品質管理等に関する基準(治験薬 GMP)」に基づく臨床試験用原薬の製造・供給、また国内外の患者さんへの低コストで高品質な医薬品の安定供給を目指したさらなる合理的な製法の探索研究をするため、新潟県上越市南部産業団地内に2007年4月より稼動いたしました。

ハードウェアとして、上越化学研究所では、ガス燃焼式ボイラーの導入、配管フラッシング水の構内樹木への散水及び空調・衛生設備の工業用水の有効使用による上水使用量の削減、また省エネ対策として人感センサーによる照明器具の制御や構内照明のソーラー式タイマー(地域別自没時間平均)の導入等、環境保全への配慮がされております。

さらには、2013年12月より排水処理施設の監視装置等を追加し環境安全面への取り組みを強化しております。

ソフトウェアでは、省エネ活動として、クールビズ・ウォームビズの導入、環境保全活動としてアイドリングストップ運動及びシュレッダーごみのリサイクルを推進、社会貢献活動として5月と11月に上越化学研究所全所員による地域環境整備活動を実施しております。

#### 廃棄物

廃棄物の発生量(トン)	再資源化量(トン)	再資源化率(%)	最終処分量(トン)
19.7	17.3	87.8	2.4

また、定期的な排水水質検査、大気環境測定、臭気測定及び必要に応じて騒音測定等の実施により、周辺環境に及ぼす影響評価を行っております。

さらに、研究所内環境部会を中心に環境マネジメントシステムに基づく活動を実施しております



工業化プロセス研究

## 東京本社、支店・営業所

### 所在地：

東京本社：〒103-0022

東京都中央区日本橋室町  
1丁目8番9号

東京本社：〒112-0002

(小石川) 東京都文京区小石川3丁目1番3号

### 主たる活動：

東京本社：東京における主要な経営プロセス  
機能の活動拠点

支店・営業所：医療用医薬品の医薬情報活動の拠点

### 環境関連法に関するデータ

#### 廃棄物

事業所	廃棄物の発生量 (トン)	再資源化量 (トン)	再資源化率 (%)	最終処分量 (トン)
東京本社	13.5	10.8	80.0	0.5
東京本社 (小石川)	34.4	24.6	71.5	1.0
営業所	9.4	9.2	98.9	0.1

#### 報告

東京本社日本橋ビルは2006年9月にISO14001を認証取得しております。

当施設は事務棟であり、危険物や劇毒物などの環境負荷が大きい物は取り扱っておりません。また、生産設備部門がないため環境に直接的に与える影響は小さいといえます。しかしながら、企業市民として環境保全に積極的に関わる必要があるとの認識から、自主的に環境に対する管理基準を設け、環境マネジメントシステムを運用しながら、環境保全活動を実施しております。

環境マネジメントシステムでは年度ごとに新しい目標を設定しております。2016年度は省エネルギー、省資源、廃棄物の削減に重点を置く目標を定め、その目標達成に向け具体的な実施計画を展開しながら活動しました。

また、地域のイベントにも積極的に参加し、2016年度は「日本橋を洗う会」や「中央区クリーンデー」などの町内の環境活動に参加しました。参加し一緒に取り組むことで、地域住民や近隣企業社員と充実したコミュニケーションをとることができました。今までの地域行事参加の積み重ねにより、地域との関わりを深めることができました。

今後も環境マネジメントシステムを主軸に沿えた活動を展開することで、環境保全に貢献して参ります。



東京本社



東京本社(小石川)

東京本社小石川ビルの環境への取り組みとして、2016年度も事業所一丸となり“紙の使用”を著しい環境側面とし、安全衛生部会、各部課の部課会等で徹底を図り、また、事業所内電子掲示板、教育、勉強会で全員に徹底し、以下の様に環境マネジメントを運用しました。

省エネルギー・地球温暖化防止対策としては、空調温度を夏季は28℃以上、冬季は20℃以下とし、不要箇所の消灯、不要機器の電源オフ等を徹底しました。

省資源としては、オフィス用紙削減、グリーン購入の促進等を安全衛生部会、各課会、事業所内電子掲示板、電子メール等で啓発した結果、オフィス用紙は前年度の使用量より削減できました。

ごみ分別の啓発用ポスターにより、分別を再徹底したため、リサイクル率は前年度より上昇しました。地域清掃活動としては、事業所全員による美化清掃を11月に実施しました。また、安全衛生部会員による清掃を5月と2月に実施しました。

環境教育及び啓発としては、部課内教育及び支店全体会議、朝礼、事業所内電子掲示板、電子メール等により啓発を行いました。

## [グループ会社の環境保全活動]

### キッセイ商事株式会社

**所在地:**

本社：〒399-0014  
 長野県松本市平田東2丁目1番1号  
 澤志庵製麺所：〒399-0702  
 長野県塩尻市広丘野村1914番地

**主たる活動:** 医薬品の原料・包装資材の販売、  
 食品などの包装資材の販売、研究  
 用機器の販売、損害保険の代理業、  
 麺類の製造・販売



キッセイ商事株式会社 澤志庵製麺所

#### 環境関連法に関するデータ

	本社	澤志庵製麺所
電力使用量	37,364kWh	611,907kWh
LPG	-	631m <sup>3</sup>
灯油	-	8kL
ガソリン(営業車)	21kL	

#### 廃棄物

廃棄物の発生量(トン)	再資源化量(トン)	再資源化率(%)
0.8	0.01	1.3

#### 地域環境整備 (2016年度)

実施月	活動の内容
4月	塩尻市角前工業団地一斉清掃 澤志庵製麺所周辺の清掃
5月	ごみゼロ運動 本社周辺の清掃
9月	塩尻市角前工業団地一斉清掃 澤志庵製麺所周辺の清掃
11月	秋の一斉清掃 本社周辺の清掃

#### 報告

当社は、キッセイグループ企業の一員として、環境保全及び社会貢献活動を行っております。

環境保全活動として、不在箇所の消灯・昼休みの消灯の実施等各社員に省エネ意識が定着しており、日々電力消費量の削減に努めております。

澤志庵製麺所におきましては、デマンドコントロールシステムを導入しております。また、資源活用事業(信州eループ事業共同組合)へ参加して4年目となり、食物残渣(麺クズ)の活用として、従来たい肥処理していたものを家畜飼料に変更し、食物資源の有効利用、食品廃棄物の発生抑制に引き続き努めております。

省資源対策としてはコピー用紙の裏紙の利用・メールの活用等による省資源に努めており、更にクールビズ(5月～10月)ウォームビズ(11月～3月)を継続的に実施しております。

社会貢献活動としては、本社においては年2回、会社周辺の清掃活動を実施しており、澤志庵製麺所では、角前工業団地の一斉清掃活動に年2回参加をしております。

当社は本年4月に創立40周年を迎えることができました。これからも持続的かつ健全に発展していくために、社会に貢献できる企業として、CSR経営を推し進めて参ります。



澤志庵 平打ちうどん

#### 【省資源対策】

使用済み封筒の再利用

食物残渣の家畜飼料化 59トン (2015年度 112トン)

## キッセイコムテック株式会社

所在地：〒390-1293

長野県松本市大字和田4010番10

主たる活動：ソフトウェア開発、情報処理サービス

### 環境関連法に関するデータ

電力使用量	2,313,870kWh
A重油	60kL
LPG	2,697㎡
ガソリン(営業車)	22kL

### 報告

当社は、システムインテグレーションサービス、システムリソースサービス、メディカルシステム開発・販売を事業内容とする総合情報サービス業であり、有害物質などを排出しない、比較的環境負荷の低い企業です。2002年6月にISO14001認証を取得し、省資源、省エネルギー活動、廃棄物排出量の削減、紙使用量の削減等の活動に取り組んで参りました。また、地域への貢献として、清掃活動等、社内・外への環境活動を積極的に推進しております。2008年より継続して、当社のお客様に対してグリーンIT機器の提案を行っております。

当社の環境活動は社内、当社周辺地域、そしてお客様へと、より多くの領域に拡大しております。

今後も21世紀に存続する企業の社会的責任において、積極的に地球の環境保全活動に取り組むという方針の下、企業活動に邁進して参ります。

### 【環境保全活動】

#### ①エネルギー使用量、二酸化炭素排出量の削減

- ・ノー残業デーの推進
- ・クール・ビズの導入(5月～10月)
- ・ウォーム・ビズの導入(11月～3月)
- ・不要時の照明の消灯
- ・OA機器の省電力設定
- ・営業車エコドライブの励行
- ・節水励行
- ・ハイブリッド車両の追加導入 4台  
(2016年度営業車両の入替え)



キッセイコムテック株式会社

### 廃棄物

廃棄物の発生量(トン)	再資源化量(トン)	再資源化率(%)
27.8	16.3	58.6

### ②省資源対策

#### OA用紙の削減

- ・電子申請・承認システムの活用
- ・両面印刷、縮小印刷の推進
- ・裏紙活用
- ・電子文書の活用

段ボール、OA用紙のリサイクル推進

分別回収の徹底(リサイクル推進)

### ③地域清掃活動の実施 (2016年度)

実施月	活動の内容
5月	本社周辺清掃
7月	本社周辺清掃
9月	本社周辺清掃
10月	信州スカイパーク、やまびこドーム周辺清掃
12月	本社周辺清掃

## ハシバテクノス株式会社

所在地：〒399-0014

長野県松本市平田東2丁目1番1号

主たる活動：総合建設業

古材販売

工場・ビル管理事業

### 報告

当社は社会基盤の提供を通じて社会へ貢献をするために、高い技術と地域密着型のきめ細かなサービスで建物の建築から設備施設の維持・管理まで行う総合建設サービス企業です。

ISO14001の認証を2002年2月に取得しており、環境問題の重要性を認識し、すべての企業活動で環境保全活動に積極的に取り組み定着を図って参りました。環境保全のための組織としてISO管理室を設置し、常に最新の環境マネジメントシステムにして参りました。

当社は2016年8月、環境に配慮した取り組みを推進している事業所として、松本市より「ecoオフィスまつもと」の認定を受けました。

今後も省エネルギー、省資源、建設廃棄物のリサイクルなどを行って、自社の企業活動における環境負荷軽減を図りながら、提供する社会基盤が自然環境と共生ができるように活動を推進して参ります。

### 【環境保全活動】

1. 省エネルギー、二酸化炭素排出量の削減
  - ・ガソリン使用料削減(前年度比-5.3%)
  - ・昼休みの消灯、不要箇所のこまめな消灯
  - ・「クール・ビズ」(5月~10月)
  - ・「ウォーム・ビズ」(11月~3月)
  - ・低燃費車輛の導入(10年以上使用した社有車を低燃費車へ更新)
  - ・エコドライブの励行
2. 省資源対策
  - ・コピー用紙の削減(前年度比43,000枚削減)
  - ・両面コピー、裏紙の利用、配付部数の削減、メールの活用
  - ・事務用品のグリーン購入推進
  - ・段ボールのリサイクル推進
3. 廃棄物の削減
  - ・事業所及び建設廃棄物の削減
4. 社会貢献活動
  - ・地域環境整備活動の実施



ハシバテクノス株式会社

### 環境関連法に関するデータ(施設管理部を除く)

電力使用量	40,925 kWh
LPG	3,048 m <sup>3</sup>
灯油	5 kL
ガソリン(営業車)	89 kL

### 廃棄物(施設管理部を除く)

廃棄物の発生量(トン)	再資源化量(トン)	再資源化率(%)
3,280	2,835	86.4

### 地域環境整備 (2016年度)

実施月	活動の内容
毎月 第3金曜日	各事業所、工事現場周辺及び国道19号線沿いの一斉清掃を実施
12月	「穴田川をきれいにする会」清掃活動



ecoオフィスまつもと認定マーク

施設管理部は、キッセイ薬品及びグループ会社のライフラインを中心とした諸施設・設備などの保全管理、外販における設備管理・保守工事・清掃を推進しています。その結果、各グループ会社の事業活動に支障を来すことなくライフラインの確保とともに、安全に安定したサービスを提供してきました。

2016年度はキッセイ薬品の本社・松本工場及び中央研究所の第二種エネルギー管理指定工場としての改正省エネ法への対応を積極的に展開し、BEMS(ビルエネルギーマネジメントシステム)によるエネルギー使用量の管理など指定工場としての目標達成のために活動しました。

その他、キッセイ薬品及びグループ会社各所の環境整備として構内及び所有地の植栽管理や、常駐警備、清掃・洗濯、印刷、廃棄物管理、焼却作業、各種修理加工等幅広く行いました。



BEMSによるエネルギー使用量の管理



設備運転状況の確認

---

## 編集後記

「CSR報告書2017」をお読みいただきありがとうございました。

このCSR報告書は、この1年間の当社におけるCSR経営の取り組みをステークホルダーの皆様にご理解いただくため2002年から毎年発行しているもので、今回で16回目となりました。

さて、最近、デジタル地球儀「触れる地球」を使ってオゾンホール動きを見る機会がありました。成層圏(約10～50km上空)に存在するオゾン地上に集めて0℃に換算すると約3mmの厚さしかありません。この少ない量のオゾンが有害な紫外線から生命を守っていることを思うと、絶妙なバランスで生命を育む地球をもっと大切にしたいと感じました。

今後も紙面の充実を図りながら、当社で取り組んでいる環境保護活動や社会貢献活動をご紹介します。皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



本報告書の内容に関するご意見・お問い合わせ先

**キッセイ薬品工業株式会社 総務部CSR推進室**

〒399-8710 松本市芳野19番48号  
TEL.0263-25-9081(代表) FAX.0263-25-9040

発行：2017年9月